



April 2013
to
March 2014

2013

THE SAISON
FOUNDATION
ANNUAL
REPORT

THE SAISON FOUNDATION

THE SAISON FOUNDATION ANNUAL REPORT

April 2013
to
March 2014

2013

公益財団法人 セゾン文化財団
2013年度 事業報告書
2013年4月 - 2014年3月

目次	ごあいさつ	4
	事業概要	6
	本年度の事業について	10
	助成事業	
	I. 芸術家への直接支援	16
	II. パートナースhip・プログラム	34
	自主製作事業・共催事業等	53
	事業日誌	64
	会計報告	65
	評議員・理事・監事・顧問名簿	67

TABLE OF CONTENTS	PREFACE	5
	PROGRAM OUTLINE	8
	ABOUT THE PROGRAMS IN 2013	12
	GRANT PROGRAMS	
	I. Direct Support to Artists	16
	II. Partnership Programs	34
	SPONSORSHIP, CO-SPONSORSHIP AND OTHER PROGRAMS	53
	REVIEW OF ACTIVITIES	64
	FINANCIAL REPORT	65
	TRUSTEES, DIRECTORS, AUDITORS AND ADVISERS	67

ごあいさつ

この度、昨年11月に逝去されました故・堤清二氏のあとを引き継ぎ、本財団の理事長に就任いたしました。ご高承のとおり堤氏は、私財で本財団を設立され、以後26年間にわたり、理事長として活動を率いてこられました。氏の卓越した芸術観、そして芸術活動に対する惜しみない献身の数々を振り返るにつけ、引き継いだ仕事の重みに、改めて身が引き締まる思いが致します。

セゾン文化財団は、現代演劇・舞踊分野を中心とした支援活動において、多くの実績を残してまいりました。これまで行った助成は累計でおよそ1200件、金額にして30億円近くに達します。このほか、本財団が特色としている森下スタジオを活用した創作スペースの貸与や、芸術家に対する情報提供など、非金銭的な支援まで含めると、芸術の世界で果たしてきた貢献はさらに大きなものになるでしょう。

また、このような支援活動を通じてわれわれ自身が得た経験やネットワークも、見えない資産として財団のなかに蓄積されているといえます。この先、これらの資産を活用しつつ、活動を展開していくことになりますが、その際には、堤氏が築いてきたものを大切に守りながら、一方で革新し続ける姿勢も忘れてはならないと思います。変わることを恐れない態度もまた、継承すべき創業者の精神だからです。

守るべきものをしっかり守りながら、なおかつ果敢な挑戦を続けていくことは、決して容易なことではありません。本財団がこれまでそれをやってこられたとすれば、それは芸術家や文化関係者、支援者をはじめとする多くのパートナーのご理解とご協力があったからに他なりません。新しい時代を迎える本財団に、今後も一層のお力添えをいただけますようお願いいたします。

2014年10月

公益財団法人セゾン文化財団
理事長 伊東 勇

Preface

Succeeding Mr. Seiji Tsutsumi, who passed away in November 2013, I have assumed the post of President of The Saison Foundation. As you may know, Mr. Tsutsumi established the Foundation with his own funds and led its activities for 26 years as President. Looking back on his prominent insight into art and generous support for artistic activities, I brace myself for the great responsibilities I have taken over from him.

The Saison Foundation has achieved much in support for the arts focusing on contemporary theater and dance. We have supported approximately 1,200 projects, which sums up to nearly three billion yen. If we evaluate our non-financial support such as offering Morishita Studio as a space for creation and of information for artists as well, the scale of our contribution to the world of art must be even more significant.

Moreover, the knowledge and network that we have built through these supporting activities have also been accumulated in the Foundation as intangible assets. We are going to use these assets to develop our activities, and when we do that, I think that we must at the same time adhere to the legacy of Mr. Tsutsumi and keep innovating ourselves, since an attitude that is open to changes was also in the spirit of the founder that we have to inherit.

It is by no means easy to resolutely keep challenging while maintaining what has to be maintained. If we have been able to do that, that must have been thanks to the understanding and cooperation of the countless partners including artists, cultural workers and supporters. I would like to express our gratitude to you for your support for the Foundation, which is going to enter a new era.

October 2014

Isamu Ito
President, The Saison Foundation

2013年度事業概要

助成事業

I. 芸術家への直接支援

1. 現代演劇・舞踊助成 — セゾン・フェロー

演劇界・舞踊界での活躍が期待される劇作家、演出家、または振付家の創造活動を支援対象としたプログラム。フェローに選ばれれば、自らが主体となって行う創造活動に当財団からの助成金を充当することができるほか、必要に応じて稽古場、ゲストルームや情報の提供が受けられる。原則として、ジュニア・フェローは2年間、シニア・フェローは3年間にわたって助成を行うが、継続の可否に関しては毎年見直す。対象は、下記の条件を満たしている劇作家、演出家、または振付家。

ジュニア・フェロー

- 日本に活動の拠点を置いている
- 申請時点で35歳以下である
- 申請時点で過去3作品以上の公演実績がある

※ただし、過去に当財団の「芸術創造活動Ⅰ」プログラムで支援を受けた芸術団体の主宰者は対象外。

シニア・フェロー

- 日本に活動の拠点を置いている
- 原則申請時点で45歳以下である
- 申請時点で過去3作品以上の公演実績がある
- 以下のいずれかの要件を満たしている
 - 劇団／ダンスカンパニーの主宰者としてセゾン文化財団の助成歴がある
 - 戯曲賞／演出家賞／振付家賞等の受賞歴がある
 - 海外の著名なフェスティバルのメイン部門での招聘歴がある

※ただし、過去に当財団の「芸術創造活動Ⅱ」プログラムで支援を受けた芸術団体の主宰者は対象外。

2. 現代演劇・舞踊助成 — サバティカル（休暇・充電）

日本を拠点に活動する劇作、演出、振付の専門家として5年以上の活動歴を有し、1ヶ月以上の海外渡航を希望する個人に対し、100万円を上限に、渡航費用の一部に対し助成金を交付。

申請時点までに継続的に作品を発表・制作し、一定の評価を受けているアーティストで、2013年度中にサバティカル（休暇・充電）期間を設け、海外の文化や芸術などに触れながら、これまでの活動を振り返り、さらに今後の展開のヒントを得たいと考えている者を優先する。

II. パートナースhip・プログラム

「パートナースhip・プログラム」では、芸術創造を支える機関・事業や、国際的な芸術活動を展開する個人／団体を当財団のパートナーとし、日本の舞台芸術の活性化や国際的な協業の推進を目指している。

1. 現代演劇・舞踊助成 — 創造環境整備

演劇・舞踊界の人材育成、システム改善、情報交流など芸術創造を支える環境の整備を目的とした助成プログラム。現代演劇・舞踊界が現在抱えている問題点を明らかにし、その解決方法を具体的に提案する事業に対し、企画経費の一部を助成（2013年度実績：50万円～100万円）し、希望者には森下スタジオ、ゲストルームを優先貸与する。原則として同一テーマ／企画の継続助成は3年間で限度とする。

2. 現代演劇・舞踊助成 ― 国際プロジェクト支援

演劇・舞踊の国際交流において特に重要な意義をもつと思われる2年以上の継続プロジェクトへの支援を目的とした助成プログラム。企画経費の一部に対して助成金を交付(2013年度実績:100万円～150万円)。希望者には森下スタジオ、ゲストルームを優先貸与。(スタジオ助成のみの場合もある)。3年を上限として助成を行うが、継続の可否に関しては毎年見直す。対象となるのは、日本と海外双方に事業のパートナーが決定しており、申請時点で国際交流関係の事業の実績を持つ個人／団体。プロデュース団体の場合は中心となる芸術家(劇作家、演出家、振付家)が固定していることを条件とする。

3. 芸術交流活動 [非公募]

海外の非営利団体との継続的なパートナーシップに基づいた芸術創造活動、日本文化紹介事業等に対して資金を提供する。

自主製作事業として ヴিজィティング・フェロープログラム、セミナー、ワークショップ、シンポジウムの主催、ニュースレターの刊行などを行う。

共催事業では、日本の舞台芸術界を活性化させるために非営利団体等と協力して事業を実施する。

PROGRAM OUTLINE -2013

GRANT PROGRAMS

I. Direct Support to Artists

1. Contemporary Theater and Dance – Saison Fellows

This program supports creative activities and projects by promising playwrights, directors, and choreographers. Fellows will be awarded grants that they may spend on their creative work, priority use of the Foundation's rehearsal and residence facilities in Tokyo (Morishita Studio), and may receive information services that are necessary to their work. Junior Fellows (artists that are thirty-five years old or younger) will receive ¥1,000,000 for two years in principle; Senior Fellows (artists that are forty-five years old or younger) will receive grants (Range of grants given in this program in 2013: ¥2,500,000 – ¥3,000,000) for three years.

2. Sabbatical Program

This category gives partial support to individuals who wish to travel abroad to come into contact with inter-cultural experiences by awarding fellowships up to ¥1,000,000. Applicants must have (a) a base in Japan; (b) more than five years of professional working experience in one of the following occupations: playwriting, directing, or choreography; and (c) plan to travel abroad for more than one month.

Priority will be given to artists who have been creating and presenting works continuously until the time of applying to this program, have an established reputation in their respective fields, and are considering to take a sabbatical leave during fiscal year 2013 to review their past activities and receive inspiration for future activities through inter-cultural experiences.

II. Partnership Programs

1. Contemporary Theater and Dance – Creative Environment Improvement Program

This program supports projects aimed to improve the infrastructure of the contemporary performing arts community in Japan (Range of grants given in this program in 2013: ¥500,000 – ¥1,000,000). Priority use of Morishita Studio may be awarded instead of grants depending on the nature of the project.

2. Contemporary Theater and Dance: International Projects Support Program

A grant program that awards long-term grants to international exchange projects in which contemporary Japanese theater or dance artists/companies are involved and require more than two years until completion. (Grants given in this program in 2013: ¥1,000,000 – ¥1,500,000). Priority use of Morishita Studio is also awarded upon request. Those eligible to apply to this program are (a) individuals or companies based in Japan or have partners in Japan, and (b) with a history of artistic achievements in the area of intercultural exchange activities at the time of application. Producing companies applying to this program are required to have a fixed artist (playwright, director, choreographer) for the project.

3. Artistic Exchange Project Program (designated fund program)

This designated fund program supports activities by not-for-profit organizations outside of Japan with a continuous partnership with the Saison Foundation, including creative work by artists/companies, projects with the aim to familiarize Japanese culture to other nations, and fellowship programs.

Note: Applications to this program are not publicly invited.

SPONSORSHIP, CO-SPONSORSHIP PROGRAMS

Apart from making grants, The Saison Foundation sponsors and organizes a Visiting Fellows Program, seminars, workshops, and symposia, and publishes a newsletter.

In order to support and enhance the creative process within contemporary theater and dance and to stimulate the performing arts scene in Japan, The Saison Foundation also organizes projects by working with artists/companies, not-for-profit organizations, and other groups under its co-sponsorship program.

本年度の事業について

常務理事 片山正夫

本年度は、現代演劇・舞踊分野を中心に、47件、総額6040万円の助成を行った。またこのほか、海外から3名のアーツ・マネジャーと1名のアーティストを、ヴィジティング・フェローとして招聘し、共催事業を1件、協力事業を2件行った。

事業の原資となる財産の運用収入は、株高や円安を背景にした債券利回りの上昇等により、大幅に増加した。伸長率は、前年度対比では90%、額にして1億円弱の増収である。これにより、年間の経常収支はようやく均衡点に近づくまでに回復した。

収入増は、当年度の事業予算には直ちに反映させられないが、現状をさらに上回る程度の収入水準が定着することが確認できれば、事業費の増額も今後視野に入れていきたいと思う。

本年度の期中に、2020年に東京でオリンピック/パラリンピックが開催されることが決定した。オリンピックは、スポーツの祭典であると同時に芸術文化の祭典でもあり、前回のロンドン・オリンピックでは、芸術文化プログラムに4年間で1億2600万ポンドが投じられ、のべ4000万人の参加があったといわれている。おそらく日本でも、今後2020年までの間、オリンピックは文化政策における最大のファクターになっていくことだろう。

ただ、このようなイベントを機に文化予算が増額されるのは歓迎すべきことではあるが、それによって行われる事業やプログラムの多くが、「オリンピックに向けた」ものに収斂されていくのだとすれば、そこに一抹の不安を感じなくもない。

これはオリンピックに限ったことではなく、たとえば東日本大震災のような場合も同様だ。ひとたび「復興」という名目で予算が組まれると、アーティストは東北のために何ができるのかを問われることになる。その結果、夥しい数の慰問公演、子供向けワークショップ、「市民参加」プログラムが誕生する。

もちろん、真に復興の手助けになるのであれば、これはこれで推進されるべきことだろうし、芸術の側にとっても、自らの持つ新しい可能性を発見する契機になるかもしれない。だが一方で、こういった大規模な政策的誘導が、実は、見えない形でアーティストの自由を侵食することになっていたとしたら？ オリンピックにつ

いて感じる一抹の不安も、その点に由来するものである。

われわれは、「復興のために何ができるのか」という問いは、アーティストが自問すべきことであり、行政や財団が問いかけるべきことではないと考える。そして、「今は自問しない」という選択をする自由も、アーティストにはあると考える。

当財団の中心的な事業であるセゾン・フェローは、劇作家、演出家、振付家の創造活動を支援するプログラムであるが、支援にあたっては、まずアーティストを信頼し、彼／彼女たちの自由を擁護することを基本的な立脚点としている。このことは、あまりにも当然のことようにも思われるが、実は官民の芸術支援機関が出すステートメントの(たぶん)どこにも述べられていない。当たり前すぎて、言うまでもないからであろうか？

さて各フェローの活動を振り返ると、本年度もおのおの充実したものであった。一括りに総括することはできないが、まさにそのことがこのプログラムの特質であるともいえる。震災についていうと、一見したところ、フェローの活動や作品のほとんどは、震災とは直接の関係がないようにみえる。しかし本当は、関係が「あるといえはある」のである。「ないといえはない」が「あるといえはある」。禅問答のようではあるが、実はこういう点にこそ、直接的な復興支援とはまた異なった、芸術活動の、そしてそれを支援することの、独自の意義があるように思えるのだ。

むしろ、一方では、現代のアーティストには、公的政策の変化など様々な“状況”に柔軟に対応し、むしろそれを利用していくくらいの強さが求められるのではないかという意見もあるだろう(いや、それはいまに始まったことではなく、王侯貴族やパトロンに仕えた時代からそうであったという意見もあるだろう)。

現代においては、アーティストとその関係者は、最大のパトロンである行政と敵対的に対峙するのではなく、共通のゴールを擦り合わせつつ建設的なパートナーシップを築いていくことが重要だ。その際に必要とされるものは、やはり芸術側の声を集約していく場であろう。その点、創造環境整備での助成も2年目を迎え、現在活動が拡大しつつある**舞台芸術制作者オープンネットワーク**のようなイニシアティブが生まれつつあるのは心強いことだ。自由の間

題を含め、さまざまなトピックを議論し、行政や一般社会に向けて発言していく主体に育っていくことを期待したい。

理事長の「ごあいさつ」でも述べられていたとおり、本年度は、当財団の出捐者である堤清二氏の逝去という痛恨の出来事があった。堤氏は、セゾングループを率いる事業家として活躍していた1987年、26億7千万円の私財を基本財産として当財団を設立し、以後、逝去の日まで理事長を務めた。本年度末の当財団の財産は96億円ほどになっているが、このほとんどすべては堤氏個人からの寄付によるものである。

芸術文化分野での社会貢献活動についていえば、堤氏は、この財団のほかにもうひとつ、軽井沢にあるセゾン現代美術館の理事長でもあった。こちらは、日本有数の現代美術コレクションをもち、展覧会活動等を行う財団であるが、このような事業財団に較べると、他者の活動を支援する助成財団である当財団は、活動が地味で、ともすれば目に見えにくい存在であろう。だがそれだけに、フィランソピストとしての氏の特質をより体現しているのではないか。

思えば、事業家としての堤清二、あるいは詩人・作家としての辻井喬(堤氏のペンネーム)をめぐる言説は数知れないほど巷間に流通したけれど、堤氏のフィランソピストとしての側面に光があてられることは決して多くはなかった。長く推進してきた芸術文化活動については、どちらかといえば企業の文化戦略というコンテクストで語られることが多かったように思われる。それが外れだというのでは、むろんない。しかし、たとえばかつての武満徹氏や安部公房氏らにたいする支援のスタンスを考えてみたとき、これらが企業の文化戦略といったフレームに単純に収まるものとはとても思われない。むしろ実質的にはアーティストに対するパトロナージュであったというべきであり、当財団は、精神的にはその流れを継承しているのである。

堤氏は、「最近の若い人のは観てないから…」と、財団の助成活動にはほとんど口をはさむことはなかった。何か発言したときの“影響力”を慮ってのことであったかも知れないが、それにしても、

助成の方針や戦略的な部分についても、ここは違うとか、こうしろとかいう話をされた記憶は全くない。おそらくそれは氏のフィランソピストとしての矜持であったのだろう。同時に、自身が創作者であったゆえに、アーティストの魂の自由をこそ不可侵なものとして擁護しなかったのではないかと思う。

当財団が季刊で発行するニュースレターviewpoint第66号は、堤氏の追悼号として、ゆかりのあった18人の方々から寄稿していただいた。珠玉の文章の数々に接し、改めて喪失したものの大きさを思わずにいられない。

本年度の助成先の選考に際して、下記の方々にご協力をいただきました。貴重なご助言をいただきましたことに深く感謝いたします。

[演劇分野] (敬称略 肩書は2012年12月当時)

鴻 英良(演劇批評家)

小澤英実(東京学芸大学准教授)

佐々木 敦(批評家)

[舞踊分野]

石井達朗(舞踊評論家・当財団評議員)

唐津絵里(愛知芸術文化センター主任学芸員)

乗越たかお

(作家・舞踊評論家、株式会社ジャパン・ダンス・プラグ代表)

在りし日の堤清二前理事長(「Donald・キーン日本文化振興賞」受賞式でのスピーチ)
撮影:桃井一至

Seiji Tsutsumi making an acceptance speech at the Donald Keene Prize
for the Promotion of Japanese Culture Photo: Kazushi Momoi



About Our Programs in 2013

Masao Katayama Managing Director

We awarded 60,400,000 yens of grants to 47 artists and projects mainly in the field of contemporary theater and dance in 2013. In addition, we invited three arts managers and an artist from overseas as Visiting Fellows and had a co-sponsorship program and two cooperative programs.

The income from asset management, which is the fund for the programs, substantially increased thanks to the upturn in the yield on bonds of which background factors were high stock prices and yen depreciation. The rate of increase was 90% over the previous year, which resulted in nearly one hundred million yen. Our annual current account finally recovered and came close to balancing out.

The increase in revenue cannot be immediately put into this year's program budget, but if the income will be stably larger than now, we would like to consider raising the expense for the programs.

In 2013, it was decided that the Olympics and Paralympics would be held in Tokyo in 2020. The Olympics celebrate not only sports but also the arts and culture. It is said that £126,000,000 and 40,000,000 people were involved in artistic and cultural programs in the four years preceding the previous Olympics in London. It is likely that the Olympics will be the major factor in cultural policies in Japan as well until 2020.

Although the fact that this sort of event stimulates increase in budgets for culture is agreeable, I cannot say I do not have an uneasy feeling that most projects and programs may be designed for and directed "toward the Olympics."

This could occur in relation not only to the Olympics but also, for instance, the Great East Japan Earthquake; as soon as budgets for "recovery" are made, artists are asked what they can do for the Tohoku district, which results in numerous touring performances for consolation, workshops for children and programs for "citizens."

If that really helps recovery, there is no reason to be against the development of those projects, and artists might be able to use the op-

portunities to discover their own new possibilities. However, what if this sort of large-scale political orientation invisibly invades artists' freedom? This is what makes me feel a little uneasy about the Olympics.

We think that the question on "what we can do for recovery" has to be spontaneously asked by artists themselves, not on the administration's or foundations' request. We also think that artists have freedom to choose the option of "not to ask the question right now."

Saison Fellows, the central program of The Saison Foundation, supports creative activities of playwrights, directors and choreographers. The support is based on, above all, trust in the artists and protection of their freedom. This sentence may sound obvious, but (probably) none of the statements by public and private institutions in Japan that support the arts say anything like this. Is that because that is too obvious to say?

The activities of the Fellows in 2013 were fruitful again. It is hard to summarize the outcomes, but it can be said that that is one of the strongest points of the program. In terms of relation to the earthquake disaster, apparently most of the Fellows' activities and pieces do not directly relate to it. However, they do relate to it if we see it that way. "They do if we see," and "they don't if we don't see." This sounds like a Zen riddle, but I think we can find what makes artistic activities and support for them uniquely meaningful there, which must be different from direct support for recovery.

On the other hand, there must be an opinion that artists of our times need to flexibly respond to various "situations" including tendencies and changes in public policies and to be clever enough to use them (some would say that is not only about our times but also was true in the times of kings' and aristocrats' patronage).

Today it is important that artists and those who work with them build productive partnership with the administration, the largest patron, looking for common goals instead of oppositions. A place for gathering the voices of artists must be needed for that. In this sense, it is encouraging that the Open Network for Performing Arts Management, an initiative which our Creative Environment Improvement Program has supported for two years, has established itself and been developing its

activities. We expect the Network to be an actor that discusses diverse topics including the question of freedom and speak up in front of the administration and society.

As our new president remarked in his preface, regrettably, Mr. Seiji Tsutsumi, the founder of The Saison Foundation, passed away in 2013. In 1987, when he was active as an entrepreneur leading the Saison Group, Mr. Tsutsumi established The Saison Foundation with his own assets of 2,670,000,000 yen as its basic fund, and he served as President for the rest of his life. At the end of the fiscal 2013, the fund was approximately 9,600,000,000 yen, almost all of which was personally donated from Mr. Tsutsumi.

In terms of his contribution to society in the fields of the arts and culture, Mr. Tsutsumi was, in addition to the presidency of The Saison Foundation, also President of Sezon Museum of Modern Art located in Karuizawa. It is a foundation that holds one of the best collections in Japan of modern art and organizes exhibitions. In comparison to this type of project-oriented foundation, The Saison Foundation's activities must look modest or even invisible. However, that might make the Foundation represent his attitude as a philanthropist even more accurately.

We recall that innumerable discourses on Seiji Tsutsumi as an entrepreneur or Takashi Tsujii (Mr. Tsutsumi's pseudonym) as a poet/writer have been spread, but light was rarely cast on his face as a philanthropist. It seems that his long involvement in support for the arts and culture tended to be mentioned in the context of a corporation's cultural strategy. I am not saying that that was pointless, but if his stance on support for, for instance, Mr. Toru Takemitsu or Mr. Kobo Abe is taken into account, it is almost impossible to put what he did simply in the framework of a corporate cultural strategy. That should be considered to be practically closer to patronage for artists, and the Foundation's spirit has succeeded that stance.

Mr. Tsutsumi hardly ever interfered in the Foundation's supporting

activities; he would say, "...because I've recently been lazy to see young artists' works." Perhaps he was careful with potentially "strong influence" of his remarks on us, but I do not even remember any objection or instruction from him about the policies and strategies of our support. Probably that was his dignity as a philanthropist, and at the same time, I suppose that he considered the spiritual freedom of artists to be inviolable and wanted to protect it, since he was an artist himself.

The 66th issue of our quarterly newsletter viewpoint, as a memorial issue for Mr. Tsutsumi, received contributions from 18 writers who were close to him. Reading their beautiful texts, I cannot help being aware of the importance of what we have lost.

We would like to thank the following persons who assisted us during the selection process for their helpful advice:

[Theater]

Hidenaga Otori (Theater Critic)

Eimi Ozawa (Associate Professor, Tokyo Gakugei University)

Atsushi Sasaki (Critic)

[Dance]

Tatsuro Ishii (Dance Critic, Trustee of The Saison Foundation)

Eri Karatsu (Dance Producer, Aichi Arts Center)

Takao Norikoshi (Critic/Director, JAPAN DANCE PLUG Co. Ltd.)

(Titles are of December 2012)

助成事業

GRANT PROGRAMS

※名称は2013年度事業報告当時

I 芸術家への 直接支援

Direct Support to Artists

現代演劇・舞踊助成 ——セゾン・フェロー

Contemporary Theater and Dance -Saison Fellows

このプログラムは、対象となる劇作家／演出家／振付家が主宰または所属する劇団やダンスカンパニー以外の芸術活動にも助成金を使用できることが特徴である。公演などの事業はもちろん、リサーチ、芸術家としての自己研鑽のための勉強や研修などにも使用することで、芸術家としての幅を広げてもらうことを意図している。助成金の交付の他、森下スタジオおよびゲストルームの提供による支援を行っている。

2013年度のセゾン・フェローの申請者の全体的な傾向としては、例年通り、大多数が東京近郊を活動拠点としており、91件中15件が関西からの申請で、それ以外の地域は数件である。東京に続いて、大阪、沖縄にもアーツカウンシルができることにより、首都圏以外の地域での舞台芸術活動の一層の活性化、支援体制の強化が図られることが期待される。また、ジュニア・フェローにおいては、舞台芸術を専門的に学ぶことのできる大学の卒業生からの申請が増えており、大学において、助成金制度を含む、舞台芸術環境についての教育も行われているものと思われ、プロフェッショナルな意識を持ち、芸術家、アーツ・マネジャーとしてのキャリア形成に意識的な人材が育っていることが伺える。

35才以下を対象とするジュニア・フェローでは、演劇分野からあごうさとし、**神里雄大**、**杉原邦生**、舞踊分野から**岩渕貞太**、**川村美紀子**、パフォーマンス分野から**塚原悠也**の6名が選抜された。神里、塚原は2011-2012年度のジュニア・フェローに引き続いての助成となる。

あごうさとしは、京都を拠点とする劇作家、演出家である。2011年より、個人名義で活動しており、「複製技術の演劇」を主題に、デジタルデバイス、映像などの複製技術や特殊メイクを使用した演劇作品を作っている。創作過程において他ジャンルの人々との共同作業が必要なことが、活動の場の広がりにつながっている。杉原邦生は演出家として京都を拠点に活動。主宰する「KUNIO」での活動の他、「木ノ下歌舞伎」でも演出を務める。KUNIOでの『エンジェルス・イン・アメリカ』、木ノ下歌舞伎での『東海道

四谷怪談-通し上演-』など大作を上演できる手腕を持ち、スケールの大きな活動が期待される。岩渕貞太は振付家で、身体構造や動きが生み出す効果や影響を出発点に、空間や音楽と向き合うパフォーマンス作品を多く作っている。ソロ作品が中心だったが、2013年度末には、これまでの方法論を発展させたトリオ作品を発表した。関かおりとの共同振付作品も作り続けている。川村美紀子は、若くして頭角を現した振付家。2011年、横浜 ダンスコレクションEX2011最優秀新人賞、2012年、ダンスがみたい! 新人シリーズ10新人賞、2013年、日本ダンスフォーラム賞など、すでに数々の受賞歴を持ち、海外のダンスフェスティバル等にも数多く招聘されている。作品において歌も自作自演するなど、幅広い才能を持ち、将来性を非常に期待されている。

またジュニア・フェロー5名が本年度で2年間の助成対象期間終了となった。江本純子は、「毛皮族」の本公演に加え、軽演劇や、「財団、江本純子」の活動により、会話劇に取り組むことで戯曲執筆力や劇団員の演技力を高める努力も重ねてきた。また、助成金を公演だけではなく視察にも使用し、地域の演劇事情を知ることにより、自身の演劇活動を見つめ直すことにもなったようだ。毛皮族においても、敢えて実験的な公演に取り組んだことが、今後、予定している幅広い地域での公演に生かされることを期待している(viewpoint 68号)。危口統之は、代表作であるパフォーマンス型作品『搬入プロジェクト』が国内外の数多くの都市から招聘され、海外においても多くの経験を積むことができた。近く、『搬入プロジェクト』記録集が刊行される予定である。劇場作品においては、創作プロセスも含めて試行錯誤を重ねている。また一貫して芸術と社会の関係を考察し続けている。柴幸男は、2013年度、長年の目標であった地域での継続的な活動が小豆島において実現した。東京とは演劇のあり方が大きく異なる地域での活動は演劇そのものを問い直すことになり、そのことが新しい発想につながったようだ。また、自主企画での小規模な地域巡回公演の実施により、劇団としての企画力、体力も向上したと

思われる。戯曲が高校生等によって上演される機会も多く、そうした状況を踏まえて、演出を切り離して、戯曲としてのクオリティを上げる必要性を感じているようで、今後の作品への期待が高まる。藤田貴大は、2012年度の他ジャンルの作家とのコラボレーションシリーズを経て、2013年度は漫画家、今日マチ子との共作『cocoon』で非常に高い評価を得た。また、初の海外公演も翌年の海外ツアーに発展し、活動規模、幅ともに大きく広がっている。旺盛な創作意欲はとどまることなく、表現方法にも変化や広がりが見られる。国内外での、ますますの活躍が期待される。KENTARO!!は、2013年度、カンパニーとソロで、公共劇場での公演を3回実施した。2回は提携公演であり、国内での評価が高まっている結果と思われる。また、海外公演も毎年、実施している。カンパニー公演では、公演ごとにメンバーの成長が見られる。すべての公演で音楽も自ら手がけ、独自の世界構築に成功している。公演以外にも、若手のショーケース公演を企画、実施したり、フェスティバルの中でプログラミングを任されるなど、舞台芸術の活性化を図る活動も積極的に行っている。

原則45才以下を対象とするシニア・フェローでは、演劇分野から前田司郎が、舞踊分野から黒田育世、向雲太郎の3名が選抜された。

前田司郎は劇作家、演出家で、「五反田団」主宰。1997年旗揚げ以来、40におよぶ戯曲、演出作品を発表している。2008年の第52回岸田國士戯曲賞ほか文学賞も含め、受賞歴も多い。すでに評価の高い劇作家、演出家ではあるが、2009年に『すてるとび』で海外フェスティバルに参加して以降、海外からの注目が高まり、数多くの招聘を受け、より広い世界での活躍が期待されている(viewpoint 62号)。黒田育世は振付家で、「BATIK」を主宰。2004-2006年、当財団の芸術創造プログラムIの助成対象者でもあった。多くの作品を発表し、受賞歴、海外での公演も多く、近年、演出家や美術家、作家をはじめとする異ジャンルのアーティストとの共同作業や映画出演など活動の分野を拡げている。また、地域に残る民族舞踊の「収集」研究などにも着手し、2012年に発表し

た大作『おたる鳥をよぶ準備』以降の新たな活躍を期待されている。向雲太郎は、18年間に籍していた「大駱駝艦」を2012年に退団し、独立。自身のカンパニーを旗揚げ、創作発表および後輩の育成ワークショップを展開していく。2013度はワークショップから開始し、2014年度に旗揚げ公演を実施し、その後に繋げて行く計画だ。実力ある舞踏手の、独立しての新たな活動を期待している。

またシニア・フェロー3名が本年度で3年間の助成対象期間終了となった。松井周は、「変態」というキーワードで現代社会を読みとき、人々を生々しく描く手腕への評価は、ジュニア・フェローからの5年間で揺るぎないものになっている。自主公演、公共劇場や他劇団への作品提供、国際美術展への参加、小説、エッセイ、教育現場など活動の場も広がった。一方で松井の創作世界を支えるような「サンプルクラブ」という緩やかな支援組織も運営し、独自の「コミュニティ」創出も考えているようだ。活動域が幅広い分野にわたり、挑戦を続けているが、安定した運営が展開されているのは、制作を始めとする松井を支えるチームの存在が不可欠だ。松井の作品はもちろんのこと、劇団運営の方法にも今後注目したい(viewpoint 67号)。山下残は、身体と言葉を独自の方法で探求し、演劇と舞踊の領域にまたがるような独特の強いコンセプトを持つ作品を展開している。助成期間中に、海外に活動地域を拡げること、理解者と協働制作者を獲得し、国際的な認知度を高めた。あわせて、自身の海外とのコミュニケーション、交渉術のスキルも高まった。海外での関心、反響と同様に国内でも上演の機会が増え、独特な表現方法を持つ貴重なアーティストとして今後も期待したい。山田うんは、再演、新作上演、国内外ツアー、アウトリーチと質量ともに充実した3年間だった。ダンスを巡る社会的状況や異分野との交流や協働作業にも積極的に取り組み、作品のスケールも質量ともに広がった。また、舞踊の枠にとらわれない活動、発言は周囲にも影響を与えている。舞踊界を牽引する一人として今後の活動に目が離せない。

松井、山下、山田の3年間の活動について

は、有識者の方々に総括をしていただいた。

各フェローの本年度の活動概要については後述のデータ編を参照されたい。

This program lets the playwrights, directors or choreographers who receive the grant use it also for their activities outside of the theater or dance companies that they represent or belong to. It is intended not only for performance projects but also for research or study and training for the artist's self-development. In addition to the grants, we offer priority use of Morishita Studio and its guest rooms.

The overall tendency of the Saison Fellows applicants in 2013 was that, as in previous years, most of them were based in Tokyo and its environs; 15 out of 91 applicants were from Kansai, and only a few applicants were from other areas. We expect that the fact that arts councils have been founded in Tokyo, Osaka and Okinawa will further stimulate performing arts activities and reinforcement of supporting schemes in other regions than the metropolitan area. The Junior Fellows program received more applications from graduates of universities that offer professional performing arts education than before, which must speak for the fact that these universities have been educating students about the performing arts environment including the grant systems and producing personnel who are aware of their professionalism and career path as artists or arts managers.

In 2013, **Satoshi Ago**, **Yudai Kamisato** and **Kunio Sugihara** from the field of theater, **Teita Iwabuchi** and **Mikiko Kawamura** from dance and **Yuya Tsukahara** from performance were selected as Junior Fellows, which is for artists younger than 35 years old. The supports for Kamisato and Tsukahara are in continuation of the 2011-2012 Junior Fellows.

Satoshi Ago is a playwright and director based in Kyoto. He has been working as an individual artist, creating theater works with the theme of "theater of mechanical reproduction" that involve reproduction mechanisms such as digital devices and images as well as special makeup effects, which puts him in need of collaborations with people from other backgrounds in his creation processes and enhances the field of his activities. Kunio Sugihara is a director based in Kyoto. In addition to his activities with his company "KUNIO," he also directs "Kinoshita-Kabuki." We have high expectations for his capability to direct large-scale pieces that has been proved by *Angels in America* with KUNIO and *Tokaido Yotsuya Kaidan* with Kinoshita-Kabuki. Teita Iwabuchi is a choreographer who has created a lot of performances that investigate space and music with effects and influences that physical structures and movements generate as their starting points. He used to focus on solo pieces,

but presented a trio piece in the end of 2013 that exhibited development of his methodology. He has also constantly been working on collaborative choreographies with Kaori Seki. Mikiko Kawamura is a choreographer who has already been successful in her very early stage of activities. She has won a lot of prizes including Yokohama Dance Collection EX 2011 Outstanding New Artist Prize, New Artist Prize during Dance ga Mitai! New Figure Dance Festival 10 in 2012 and Japan Dance Forum Prize in 2013, and has also frequently been invited to overseas dance festivals. Expectations on her future activities are growing, since her talent is not limited within choreography; she even composes and sings songs in her pieces.

Five Junior Fellows completed their two-year grant-receiving terms in 2013. Junko Emoto, in addition to the productions of her company "Kegawazoku," worked on dialogues through light pieces and works with another name "zaidan, emotojunko," developing her own playwriting and acting skills of her companies' members. She used the grant not only for productions but also for researches to learn about theater scenes in regions, which enabled her to look at her own theater creations from a new point of view. Her experience of trying to make Kegawazoku's performances more experimental should contribute to their future productions that she is planning to widely tour. Noriyuki Kiguchi's most acknowledged performance *Carry-In-Project* was invited by many cities in Japan and the world, and he accumulated experience overseas. An anthology of *Carry-In-Project* is going to be published soon. As for dramatic works for showing in a theater, he has been going through trial-and-error processes and consistently reflecting on the relationship between art and society. Yukio Shiba had long been aiming for a long-term regional work, and that came true in Shodo Island in 2013. The work in the environment where the situation of theater was very different from Tokyo let him reconsider theater itself and led him to new ideas. Small-scale tours in regions on their own improved his company's management ability and stamina. His plays have been often performed by high school students, so he feels that he needs to develop his plays' quality separately from directing. We look forward to his new works. Takahiro Fujita, after the series of collaborations with artists from other backgrounds in 2012, worked on *cocoon* in collaboration with cartoonist Machiko Kyo in 2013, which was received very well. His first overseas performance developed into an international tour in the next year; the scale and range of his activities have been extending. His motivation for creation has been even stronger, and the style of expression has been changing and expanding. We expect him to be even more active in Japan and internationally. KENTARO!! presented three

company and solo performances at public theaters in 2013. Two of them were co-productions, which speaks for the fact that his reputation has recently been going up in Japan. He has also been performing overseas every year. His company performances exhibit improvement of its members every time. He does not only choreograph but also composes music for all his works, creating a unique atmosphere as a whole. In addition to performances, he has actively been involving himself in activities for vitalization of the performing arts scene, producing showcases of young artists and programming a part of festivals.

Three artists were selected as Senior Fellows, which is basically for artists younger than 45 years old: **Shiro Maeda** from the field of theater and **Ikuyo Kuroda** and **Kumotaro Mukai** from dance.

Shiro Maeda is a playwright/director who leads "Gotandadan." Since its establishment in 1997, he has presented about 40 plays and directions, and has received a lot of awards including the 52nd Kishida Kunio Drama Award in 2008 and literature awards. He was already a highly acclaimed playwright/director, but since participating in an overseas festival with his *Suteru Tabi*, he has been drawing international attention and receiving a number of invitations. We look forward to his activities in an even broader field (see viewpoint, no.62). Ikuyo Kuroda is a choreographer who leads "BATIK". She was also a grant recipient of our Artistic Creativity Enhancement Program I from 2004 to 2006. Having presented a number of pieces, received a lot of prizes and performed overseas often, she has recently been expanding her field of activity collaborating with directors, fine artists and writers as well as appearing in films. She has also started to study and "collect" regional folklore dance, and the eyes of the performing arts world are upon what her new project will be like after the large-scale piece *OTARUDORI* in 2012. Kumotaro Mukai left "Dairakudakan", where we worked for 18 years, in 2012 and is going to establish his own company, create his own works and hold workshops for young dancers. He held workshops in 2013 and is planning to present the first performance of his company in 2014 aiming for continuous activities. We look forward to what he is going to newly do as an established butoh dancer who has just become independent.

Three Senior Fellows completed their three-year grant-receiving terms in 2013. Shu Matsui's ability to examine contemporary society with his keyword "pervert" and vividly depict people has established unbeatable reputation in the five years since his Junior Fellow term. He has become active in diverse fields including he company's own production, writing and directing for public theaters and other companies,

an international art exhibition, novels, essays and education. He is also thinking of creating a unique "community" through loosely forming and managing an organization called "Sample Club" that supports the world of his creation. He has been working on challenging projects in diverse fields, and these activities could not have been stable without the manager and team that supported him. We would like to keep an eye on not only his creations but also the management (see viewpoint, no.67). Zan Yamashita explores the body and words with his own methodology and creates works with unique and strong concepts that connects the domains of theater and dance. During his grant-receiving term, he became more active overseas and obtained understandings, cooperators and international visibility. He also improved international communication and negotiation skills. We expect that the international interests and reactions stimulate domestic opportunities and recognition as a unique artist who has established his own expression and methodology as well. Un Yamada's activities including presentations of past and new pieces, national and international tours and outreach projects were fruitful both in terms of quality and quantity throughout the three years. She actively studied the social situations in relation to dance, exchanges with different disciplines and collaborations. Her activities and remarks that are free from the framework of dance have been influencing surrounding cultural worlds. We must keep an eye on future activities of her, who has become one of the leading artists in the dance world.

We had experts summarize the activities in the three years of Matsui, Yamashita and Yamada.

Details on the activities of each Fellow artist in 2013 are listed in the following pages.

2013年度より From 2013



あごうさとし

(劇作家・演出家・俳優)
[演劇／京都]

Satoshi Ago

(playwright, director, actor) [theater/Kyoto]
<http://www.agosatoshi.com/>

継続助成対象期間

2013年度から2014年度まで

2013年度の助成内容

金額●1,000,000円(事業、海外取材調査に充当)

2013年度の主な活動

2013年7月●講演「複製技術の演劇」[地図を演劇にする]

大阪(国立民族博物館)

7-9月●映像インスタレーション作品『nothing at all』

アテネ(Contemporary Art Meeting Point)

11-12月●『複製技術の演劇-パサージュⅢ』東京、

大阪(こまばアゴラ劇場、大阪府立江之子島文化芸術創造センター) 他

Grant-receiving term

From 2013 to 2014

Details on support during fiscal year 2013

Grant: ¥1,000,000 (used for performances and research at abroad)

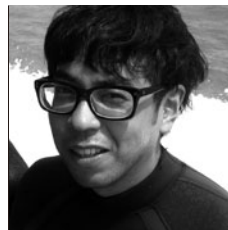
Major activities during fiscal year 2013

July-September 2013: Video installation *nothing at all*,
in Athens (Contemporary Art Meeting Point)

November-December: *-The Theatre Works of Mechanical Reproduction-
PASSAGE III* at Komaba Agora Theater in Tokyo and at Enokojima Art,
Culture and Creative Center in Osaka, etc.



『複製技術の演劇-パサージュⅢ』東京、2013年11月 撮影：あごうさとし
—*The Theatre Works of Mechanical Reproduction- PASSAGE III*, in Tokyo,
November 2013 Photo: Satoshi Ago



神里雄大

(劇作家・演出家「岡崎藝術座」代表)
[演劇／東京]

Yudai Kamisato

(playwright, director and artistic director of
Okazaki Art Theatre) [theater/Tokyo]
<http://okazaki-art-theatre.com>

継続助成対象期間

2013年度から2014年度まで

2013年度の助成内容

金額●1,000,000円(公演、視察等に充当)

スタジオ提供●9日間

2013年度の主な活動

2013年6-7月●岡崎藝術座『(飲めない人のための) ブラックコーヒー』

ツアー 東京、京都、熊本、鹿児島(北品川フリースペース楽間、KAICA、
早川倉庫、e-terrace)

7月●小説「亡命球児」が「新潮」2013年8月号に掲載される

8月●宮崎県立芸術劇場 リーディングナウ2013『エビログ?』

(作:エルフリーデ・イエリネク) 演出 宮崎(宮崎県立芸術劇場)

12月-2014年3月●新作取材旅行 沖縄、ペルー、アルゼンチン、

パラグアイ、アメリカ合衆国

Grant-receiving term

From 2013 to 2014

Details on support during fiscal year 2013

Grant: ¥1,000,000 (used for performances and research for new work)

Major activities during fiscal year 2013

June-July 2013: *black coffee (not for drink)* tour, Okazaki Art Theatre, in Tokyo,
Kyoto, Kumamoto, Kagoshima (Kita-Shinagawa Free Space RAKUMA,
KAICA, Hayakawa Warehouse, e-terrace)

July: Novel *An exile ball boy* appeared in "Shincho" magazine.

August: Directed *Epilog?* (text by Elfriede Jelinek) in "Reading Now"
presented by Miyazaki Prefectural Arts Center, Miyazaki

December 2013-March 2014: Research tour for the next work in Okinawa, Peru,
Argentina, Paraguay and U.S.A.



岡崎藝術座『(飲めない人のための) ブラックコーヒー』東京、2013年6月
撮影：富貴塚悠太 (for non-drinker) *BLACK COFFEE*, Okazaki Art Theatre,
in Tokyo, June 2013 Photo: Yuta Fukitsuka



杉原邦生

(演出家・舞台美術家「KUNIO」代表)
[演劇／京都]

Kunio Sugihara

(director, stage designer and
artistic director of KUNIO) [theater/Kyoto]
<http://www.kunio.me/>

撮影：堀川高志 Photo: Takashi Horikawa

継続助成対象期間

2013年度から2014年度まで

2013年度の助成内容

金額●1,000,000円(事業、自己研修等に充当)

スタジオ提供●14日間

2013年度の主な活動

2013年5-6月●木ノ下歌舞伎『黒塚』演出・舞台美術
神奈川(十六夜吉田町スタジオ)

6月●木ノ下歌舞伎『三番叟／娘道成寺』演出・舞台美術
チリ(ガブリエラ・ミストラル・センター)

8月、12月、2014年3月●KUNIO11『ハムレット』のためのワークショップを
実施 京都、東京(京都芸術センター、森下スタジオ)

10月●『木ノ下歌舞伎ミュージアム“SANBASO”

～バババッとわかる三番叟～』総合演出

京都(「京都国際舞台芸術祭(KYOTO EXPERIMENT) 2013」公式プログラム)

11月●木ノ下歌舞伎『東海道四谷怪談・通し上演』演出
東京(「フェスティバル/トーキョー13」公式プログラム) 他

Grant-receiving term

From 2013 to 2014

Details on support during fiscal year 2013

Grant: ¥1,000,000 (used for workshops and study)

Studio Rental: 14 days

Major activities during fiscal year 2013

May-June 2013: directed and stage designed *KUROZUKA*,
KINOSHITA-KABUKI, in Kanagawa

June: directed and stage designed *SAMBASO/MUSUME-DOJYO-JI*,
KINOSHITA-KABUKI, in Chile

August, December 2013, March 2014: Workshops for KUNIO's *HAMLET*,
at Kyoto Art Center in KYOTO and at Morishita Studio in Tokyo

October: directed and stage designed *KINOSHITA-KABUKI MUSEUM*
“*SAMBASO*”, in “KYOTO EXPERIMENT2013”, Kyoto

November: directed *TOKAIDO YOTSUYA KAIDAN*, KINOSHITA-KABUKI, in
“FESTIVAL/TOKYO13”, Tokyo, etc.



木ノ下歌舞伎『黒塚』神奈川、2013年5月 撮影：田中亜紀
KUROZUKA, KINOSHITA-KABUKI, in Kanagawa, May 2013. Photo: Aki Tanaka



岩渕貞太

(振付家・ダンサー「身体地図」代表)
[舞踊／東京、神奈川]

Teita Iwabuchi

(choreographer, dancer and artistic director of
Body Map) [dance/Tokyo, Kanagawa]
<http://teita-iwabuchi.com/>

撮影：bobu Photo: bobu

継続助成対象期間

2013年度から2014年度まで

2013年度の助成内容

金額●1,000,000円(事業、自己研修に充当)

スタジオ提供●4日間

2013年度の主な活動

2013年5-6月●「DANCE-X13 MONTREAL:TOKYO:BUSAN 3rd Edition」『Hetero』
3都市ツアー 共同振付・出演 モントリオール、釜山、

東京(青山円形劇場他)

10月●スガダイロー五夜公演『瞬か』即興振付・出演 東京(あうるすぽっと)

2014年2月●トークイベント「×TALK」ゲスト:多田淳之介(WEBサイトにて公開)

3月●岩渕貞太 身体地図『斑(ふ)』東京(アサヒ・アートスクエア) 他

Grant-receiving term

From 2013 to 2014

Details on support during fiscal year 2013

Grant: ¥1,000,000 (used for performance and study)

Studio Rental: 4 days

Major activities during fiscal year 2013

May-June 2013: Participated as a choreographer and dancer in “DANCE-X13
MONTREAL:TOKYO:BUSAN 3rd Edition” for *Hetero*

August: Solo performance *DIVER*

February 2014: Talk event “×TALK” on the website (guest: Junnosuke Tada)

March: *Fu*, Body Map / Teita Iwabuchi, in Tokyo, etc.



岩渕貞太 身体地図『斑(ふ)』東京、2014年3月 撮影：細川浩伸
Fu, Body Map / Teita Iwabuchi, in Tokyo, March 2014.
Photo: Hironobu Hosokawa



川村美紀子

(振付家・ダンサー)
[舞踊/東京]

Mikiko Kawamura

(choreographer, dancer) [dance/Tokyo]
<http://kawamuramikiko.com/>

撮影: 梶山かつみ Photo: Katsumi Kajiyama

継続助成対象期間

2013年度から2014年度まで

2013年度の助成内容

金額●1,000,000円(事業、自己研修等に充当)

スタジオ提供●20日間

2013年度の主な活動

2013年4月●第7回日本ダンスフォーラム賞受賞

6月●『へびの心臓』ポーランド(「マルタフェスティバル・ポズナン」)

8月●『いちごちゃん』東京(「ダンスがみたい! 15」)

8-9月●「EASTERN CONNECTION contemporary dance / Romania - Japan /

2013-2015(滞在製作プロジェクト)」に参加 ルーマニア

9月●『へびの心臓』クロアチア、ベトナム(「Perforacije Festival」、

「Europe meets Asia in Contemporary Dance 2013」)

10月●森下真樹×東芋『錆からでた実』に出演

2014年2月●「川村美紀子 裏企画」

神奈川(桜木町駅前広場、掃部山公園)他

Grant-receiving term

From 2013 to 2014

Details on support during fiscal year 2013

Grant: ¥1,000,000 (used for performances and study)

Studio Rental: 20 days

Major activities during fiscal year 2013

April 2013: Awarded Japan Dance Forum Prize

June: *Alphard* in "MALTA FESTIVAL POZNAN", Poland

August: *Strawberry girl* in Tokyo

August-September: Participated in "EASTERN CONNECTION contemporary

dance / Romania - Japan / 2013-2015 (residence & creation project)", Romania

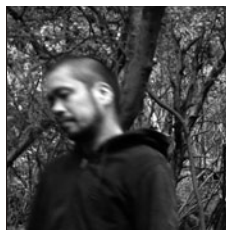
September: *Alphard* in "Perforacije Festival", Croatia and in "Europe meets Asia

in Contemporary Dance 2013", Vietnam

February 2014: "Mikiko Kawamura Independent Project" in Kanagawa, etc.



『いちごちゃん』東京、2013年8月 撮影: BOZZO
Strawberry girl in Tokyo, August 2013. Photo: BOZZO



塚原悠也

(演出家・パフォーマー「contact Gonzo」代表)
[パフォーマンス/大阪]

Yuya Tsukahara

(director, performer and artistic director of
contact Gonzo) [performance/Osaka]
<http://contactgonzo.blogspot.com/>

継続助成対象期間

2013年度から2014年度まで

2013年度の助成内容

金額●1,000,000円(事業、取材等に充当)

2013年度の主な活動

2013年7-9月●山口情報芸術センター

「国際グループ展 art and collective intelligence」に参加 山口

9-10月●αM gallery「楽園創造・芸術と日常の新地平」vol.4

としてコンタクトゴンゾ展を開催 東京

10月●フライブルグ市立劇場「Urban Gardening und Tanz」に参加

12月●コンタクトゴンゾxホンマタカシ『熊を殺すと雨が降る』

兵庫(アイホール)

2014年2-3月●「神戸・アジア コンテンポラリーダンス・フェスティバル #03」

にてプログラム・ディレクターを務め、コンタクトゴンゾのパフォーマンスと

展示も行う 兵庫(Art Theater dB 神戸) 他

Grant-receiving term

From 2013 to 2014

Details on support during fiscal year 2013

Grant: ¥1,000,000 (used for performance and research)

Major activities during fiscal year 2013

July-September 2013: Participated in "International group exhibition art and

collective intelligence" at Yamaguchi Center for Arts and Media, Yamaguchi

September-October: Solo Exhibition of contact Gonzo at αM gallery in Tokyo

October: Performance in "Urban Gardening und Tanz" at Theater Freiburg

December: CONTACT GONZO x HOMMA TAKASHI

It shall rain, when you shoot a bear at AI-HALL in Hyogo

February-March 2014: Participated as Program Director and presented

a performance of contact Gonzo in "KOBE - Asia Contemporary Dance Festival

#03" at Art Theater dB Kobe in Hyogo, etc.



コンタクトゴンゾxホンマタカシ『熊を殺すと雨が降る』兵庫、2013年12月
撮影: 井上嘉和 CONTACT GONZO x HOMMA TAKASHI *It shall rain,*
when you shoot a bear in Hyogo, December 2013 Photo: Inoue Yoshikazu



江本純子

(劇作家・演出家・俳優「毛皮族」代表)
[演劇／東京]

Junko Emoto

(playwright, director, actor and artistic director of
KEGAWAZOKU) [theater/Tokyo]
<http://www.kegawazoku.com/>

継続助成対象期間

2012年度から2013年度まで

2013年度までの助成金額(単位:円)

2012年度	2013年度	合計
1,000,000	1,000,000	2,000,000

2013年度の助成内容

金額●1,000,000円(公演・視察・取材に充当)

スタジオ提供●33日間

2013年度の主な活動

2013年9月●財団、江本純子『常に最高の状態』東京(ギャラリーLE DECO)
11-12月●毛皮族『血も涙も靴もない』東京(森下スタジオ)

Grant-receiving term

From 2012 to 2013

Amount of continuous grants (in yen)

2012	2013	Total
1,000,000	1,000,000	2,000,000

Details on support during fiscal year 2013

Grant: ¥1,000,000 (used for performances and research)

Studio Rental: 33 days

Major activities during fiscal year 2013

September 2013: *Tsune ni Saikou no Joutai*, Zaidan, emotojunko, in Tokyo
November-December: *Chi mo Namida mo Kutsu mo Nai*, KEGAWAZOKU, at Morishita Studio in Tokyo



毛皮族『血も涙も靴もない』森下スタジオ、2013年11月 撮影:青木司
Chi mo Namida mo Kutsu mo Nai, KEGAWAZOKU, at Morishita Studio,
November 2013 Photo: Tsukasa Aoki



危口統之

(演出家「悪魔のしるし」代表))
[演劇／東京、神奈川]

Noriyuki Kiguchi

(director and artistic director of
AKUMA NO SHIRUSHI) [theater/Tokyo, Kanagawa]
<http://www.akumanoshirushi.com/>

継続助成対象期間

2012年度から2013年度まで

2013年度までの助成金額(単位:円)

2012年度	2013年度	合計
1,000,000	1,000,000	2,000,000

2013年度の助成内容

金額●1,000,000円(事業、自己研修、機材購入に充当)

2013年度の主な活動

2013年4月●悪魔のしるし『搬入プロジェクト』スロベニア、
クロアチア(「エキソドス」、「ドリュゴモア」)
9月●悪魔のしるし『悪魔としるし』神奈川(相鉄本多劇場)
10月●悪魔のしるし『搬入プロジェクト』
ソウル(「ハインソウルフェスティバル」)
12月●悪魔のしるし『注文の多い料理店』神奈川(似て非works) 他

Grant-receiving term

From 2012 to 2013

Amount of continuous grants (in yen)

2012	2013	Total
1,000,000	1,000,000	2,000,000

Details on support during fiscal year 2013

Grant: ¥1,000,000 (used for performances, research and study, etc.)

Major activities during fiscal year 2013

April-May 2013: *Carry-In-Project*, AKUMA NO SHIRUSHI,
in "EXODOS Ljubljana", Slovenia and in "Drugo More", Croatia
September: *FIEND AND SYMPTOM*, AKUMA NO SHIRUSHI, in Kanagawa
October: *Carry-In-Project*, AKUMA NO SHIRUSHI,
in "HI SEOUL FESTIVAL 2013", Seoul
December: *A Short Account of the Restaurant of Abundant Orders*,
AKUMA NO SHIRUSHI, at nitehiworks in Kanagawa, etc.



悪魔のしるし『悪魔としるし』神奈川、2013年9月 撮影:宮村ヤスヲ
Fiend and Symptom, AKUMA NO SHIRUSHI in Kanagawa,
September 2013 Photo: Yasuwo Miyamura



柴幸男

(劇作家・演出家「ままごと」代表)
[演劇／東京、愛知]

Yukio Shiba

(playwright, director and artistic director of
mamagoto) [theater/Tokyo, Aichi]
<http://www.mamagoto.org>

撮影：源賀津己 Photo: Katsmi Minamoto

継続助成対象期間

2012年度から2013年度まで

2013年度までの助成金額(単位:円)

2012年度	2013年度	合計
1,000,000	1,000,000	2,000,000

2013年度の助成内容

金額●1,000,000円(小豆島でのプロジェクトに充当)

2013年度の主な活動

2013年3-4月●ままごと『港の劇場』春会期 香川(「瀬戸内国際芸術祭2013 瀬の郷+坂手港プロジェクト」)

4-5月●ままごと『朝がある』-弾き語りTOUR-大阪・三重・神奈川(FOLK old book store、津あけぼの座スクエア、桜美林大学ブルヌスホール)

4, 5, 6, 9, 11-12月●「Theater ZOU-NO-HANA」vol.01-05

(ワークショップ+滞在制作+公演)構成・演出・出演 神奈川(象の鼻テラス)

7-9月●ままごと『港の劇場』夏会期

8月●ままごと『日本の大人』愛知(名古屋、豊橋)、新潟、香川、兵庫(愛知県芸術劇場「あいちトリエンナーレ 2013」、穂の国とよはし芸術劇場、りゅーとぴあ 新潟市民芸術文化会館、遊児老館、AI・HALL)

10-11月●ままごと『港の劇場』秋会期 他

Grant-receiving term

From 2012 to 2013

Amount of continuous grants (in yen)

2012	2013	Total
1,000,000	1,000,000	2,000,000

Details on support during fiscal year 2013

Grant: ¥1,000,000 (used for residence, creation and performance in Shodoshima)

Major activities during fiscal year 2013

March-April 2013: *Port Theater* Spring session, mamagoto, in "Setouchi Triennale 2013 Relational Tourism", Shodoshima, Kagawa

April-May: *There is a morning [morning girl]* -acoustic TOUR-, mamagoto, in Osaka, Mie and Kanagawa (FOLK old book store, Tsu Akebono-Za square, Obirin University PRUNUS HALL)

April, May, June, September, November-December: directed and performed "Theater ZOU-NO-HANA" vol.01-05 (Workshop + Residence & Creation + Performance) at ZOU-NO-HANA TERRACE in Kanagawa

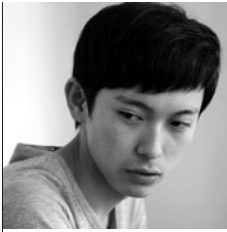
July-September: *Port Theater* Summer session, mamagoto

August: *Mr.Children*, mamagoto, in Aichi, Nigata, Kagawa and Hyogo ("Aichi Triennale 2013", TOYOHASHI ARTS THEATRE PLAT, Ryutopia Niigata-City Performing Arts Center, Yujirou-Kan, AI-HALL)

October-November: *Port Theater* Autumn session, mamagoto, etc.



ままごと『港の劇場』小豆島、2013年10月 撮影：濱田英明
The theater in a port, mamagoto, in Shodoshima, October 2013.
Photo: Hideaki Hamada



藤田貴大

(劇作家・演出家「マームとジプシー」代表)
[演劇／東京、神奈川]

Takahiro Fujita

(playwright, director and artistic director of
mum & gypsy) [theater/Tokyo, Kanagawa]
<http://www.mum-gypsy.com/>

継続助成対象期間

2012年度から2013年度まで

2013年度までの助成金額(単位:円)

2012年度	2013年度	合計
1,000,000	1,000,000	2,000,000

2013年度の助成内容

金額●1,000,000円(公演に充当)

2013年度の主な活動

2013年4-5月●マームとジプシー『てんとてんを、むすぶせん。』
からなる、立体。そのなかに、つまっている、いくつもの。ことなつた、
世界。および、ひかりについて。』神奈川(十六夜吉田町スタジオ)
5-6月●マームとジプシー『てんとてんを、むすぶせん。』からなる、立体。
そのなかに、つまっている、いくつもの。ことなつた、世界。および、
ひかりについて。』フィレンツェ、サンチアゴ(「Fabbrica Europa」、GAM)
8月●マームとジプシー『cocoon』東京(東京芸術劇場)
11-12月●マームとジプシー『モモノパノラマ』神奈川、新潟、福岡(神奈川
芸術劇場、りゅうとびあ 新潟市民芸術文化会館、北九州芸術劇場)
2014年2月●マームとジプシー『Rと無重力のうねり』
神奈川(のげシャール)他

Grant-receiving term

From 2012 to 2013

Amount of continuous grants (in yen)

2012	2013	Total
1,000,000	1,000,000	2,000,000

Details on support during fiscal year 2013

Grant: ¥1,000,000 (used for performances and research)

Major activities during fiscal year 2013

April-May 2013: *Dots and lines, and the cube formed.*
The many different worlds inside. And light.,
mum & gypsy, at Izayoi Yoshidamachi Studio in Kanagawa
May-June: *Dots and lines, and the cube formed.*
The many different worlds inside. And light., mum & gypsy,
in "Fabbrica Europa", Firenze and at GAM in Santiago de Chile
August: *cocoon*, mum & gypsy, at Tokyo Metropolitan Theatre in Tokyo
November-December: *Panorama of Momo*, mum & gypsy, in Kanagawa,
Nigata and Fukuoka (Kanagawa Arts Theatre,
Ryutopia Niigata-City Performing Arts Center, Kitakyusyu Arts Center)
February 2014: *R and weightless surges*, mum & gypsy,
at Noge Shale in Kanagawa, etc.



マームとジプシー『cocoon』東京、2013年8月 撮影：飯田浩一
cocoon, mum & gypsy, in Tokyo, August 2013. Photo: Koichi Iida



KENTARO!!

(振付家・ダンサー
「東京 ELECTROCK STAIRS」代表)
[舞踊／東京]

KENTARO!!

(choreographer, dancer and artistic director of
TOKYO ELECTROCK STAIRS) [dance/Tokyo]
<http://www.kentarock.com/> (KENTARO!!)
<http://www.tokyoelectrock.com/>
(東京 ELECTROCK STAIRS)

撮影：服部未来 Photo: Miki Hattori

継続助成対象期間

2012年度から2013年度まで

2013年度までの助成金額(単位：円)

2012年度	2013年度	合計
1,000,000	1,000,000	2,000,000

2013年度の助成内容

金額●1,000,000円(公演、機材、自己研修費に充当)
スタジオ提供●10日間

2013年度の主な活動

2013年4月●ショーケース「Flat plat fesdesu Vol.2」を企画実施
東京(こまばアゴラ劇場)
6月●東京 ELECTROCK STAIRS『東京るるる』東京(吉祥寺シアター)
8月●若手育成企画「N.N.N4」を監修 神奈川(STスポット)
10月●東京 ELECTROCK STAIRS『つまるところよいん』
神奈川(KAAT 神奈川芸術劇場)
12月●KENTARO!! France tour マルセイユ、
モンペリエ(「l'Expérience Japonaise」、カンパニーディディエテロン・アトリエ)
2014年1月●KENTARO!! ソロ公演『ひとびとひとり』東京(シアタートラム) 他

Grant-receiving term

From 2012 to 2013

Amount of continuous grants (in yen)

2012	2013	Total
1,000,000	1,000,000	2,000,000

Details on support during fiscal year 2013

Grant: ¥1,000,000 (used for performances, equipment, research and study)
Studio Rental: 10 days

Major activities during fiscal year 2013

April 2013: organized "Flat plat fesdesu Vol.2",
at Komaba Agora Theater in Tokyo
June: *Tokyo rururu*, TOKYO ELECTROCK STAIRS, at Kichijoji theater in Tokyo
August: supervised "N.N.N4", at STSpot in Kanagawa
October: *Tsumarutokoro Yoin*, TOKYO ELECTROCK STAIRS,
at Kanagawa Arts Theatre in Kanagawa
December: KENTARO!! France tour at "l'Expérience Japonaise"
in Marseille and in Montpellier
January 2014: KENTARO!! SOLO *We're All alone* at theater Tram in Tokyo, etc.



東京 ELECTROCK STAIRS『東京るるる』東京、2013年6月 撮影：和田咲子
Tokyo rururu, TOKYO ELECTROCK STAIRS, in Tokyo, June 2013.
Photo: Sakiko Wada

2013年度より From 2013



前田 司郎

(劇作家・演出家・俳優・映画監督
「五反田団」代表)
[演劇／東京]

Shiro Maeda

(playwright, director, actor, movie director and
artistic director of Gotandadan) [theater/Tokyo]
<http://www.uranus.dti.ne.jp/~gotannda/>

— 継続助成対象期間

2013年度から2015年度まで

— 2013年度の助成内容

金額 ● 2,500,000円(公演に充当)

— 2013年度主な活動

2013年4月 ● 五反田団「迷子になるわ」福岡(「福岡演劇フェスティバル」)

9月 ● 五反田団「五反田の朝焼け」東京(アトリエヘリコプター)

11月 ● 映画「ジ、エクストリーム、スキヤキ」公開 原作・監督・脚本

12月 ● 北海道テレビ「別に普通の恋」シナリオ

2014年1月: ● 五反田団「すてるたび」

シンガポール(「シンガポールM1フェスティバル」) 他

— Grant-receiving term

From 2013 to 2015

— Details on support during fiscal year 2013

Grant: ¥2,500,000 (used for performances)

— Major activities during fiscal year 2013

April 2013: *Going On The Way To Get Lost*, GOTANNADAN,
at Fukuoka Theater Festival in Fukuoka

September: *Morning Glow in Gotanda*, GOTANNADAN,
at Atelier Helicopter in Tokyo

November: Movie premiere: "THE EXTREME SUKIYAKI" directed,
screenplay and original story by Shiro Maeda

December: Hokkaido Television drama: "Simple and Ordinary Love"

TV scenario by Shiro Maeda

January 2014: *Suteru Tabi*, GOTANNADAN,
in "Singapore M1 Fringe Festival 2014", Singapore



五反田団「すてるたび」シンガポール、2014年1月
Suteru Tabi, GOTANNADAN, in Singapore, January 2014



黒田 育世

(振付家・ダンサー「BATIK」代表)
[舞踊／東京]

Ikuyo Kuroda

(choreographer, dancer and artistic director of
BATIK) [dance/Tokyo]
<http://batik.jp/>

— 継続助成対象期間

2013年度から2015年度まで

— 2013年度の助成内容

金額 ● 2,500,000円(公演、研究、リサーチ等に充当)

スタジオ提供 ● 90日間

— 2013年度主な活動

2013年4月 ● 「BATIK トライアル vol.12」東京(森下スタジオ)

7月 ● レパートリーワークショップ「ラストパイ」成果発表 東京(森下スタジオ)

8月 ● 古川日出夫とのセッション 東京(アサヒ・アートスクエア)

鈴屋法水x黒田育世 東京(「吾妻橋ダンスクロッシング」)

9月 ● BATIK「SHOKU」ハンガリーツアー

12月 ● 「BATIK トライアル vol.13」東京(森下スタジオ) 他

— Grant-receiving term

From 2013 to 2015

— Details on support during fiscal year 2013

Grant: ¥2,500,000 (used for performances, study and research)

Studio Rental: 90 days

— Major activities during fiscal year 2013

April 2013: "BATIK trial vol.12" at Morishita Studio in Tokyo

July: Showing of Repertory Workshop *Last Pie*, at Morishita Studio in Tokyo

August: Session with Hideo Furukawa in Tokyo

Norimizu Ameya x Ikuyo Kuroda in "Azumabashi Dance Crossing", Tokyo

September: *SHOKU* Hungary tour, BATIK

December: "BATIK trial vol.13" at Morishita Studio in Tokyo, etc.



BATIK「ラストパイ」森下スタジオ、2013年7月
Last Pie, BATIK, at Morishita Studio, July 2013

**向雲太郎**(振付家・舞踏家)
[舞踊／東京]**Kumotaro Mukai**(choreographer, Butoh dancer) [dance/Tokyo]
<http://www.soulplaying.info/>**継続助成対象期間**

2013年度から2015年度まで

2013年度の助成内容金額 ● 2,500,000円 (事業、自己研修等に充当)
スタジオ提供 ● 26日間**2013年度の主な活動**2013年4月 ● 室井公美子 (美術) との共同制作ソロ公演『泉下の客』東京
(キッド・アイラック・アート・ホール「The 8th ACKid 2013」)

6月 ● 「ワークインプログレス」東京 (森下スタジオ)

9-10月 ● 「Dance Truck Project 2013」参加 神奈川、
福島 (横浜新港ふ頭入口前、福島県会津若松市特設会場、
福島宮城県仙台市宮城野文化センター広場)

12月 ● 「向雲太郎ワークショップ」東京 (西巣鴨幼稚園)

向雲太郎ソロ公演『舞踏?』東京 (スペースエッジ) 他

Grant-receiving term

From 2013 to 2015

Details on support during fiscal year 2013Grant: ¥2,500,000 (used for performances and study)
Studio Rental: 26 days**Major activities during fiscal year 2013**

June: "Work in progress" at Morishita Studio in Tokyo

September-October: Participated in "Dance Truck Project 2013"
in Kanagawa and FukushimaDecember: Kumotaro Mukai Solo performance *Butoh?*
at Space Edge in Tokyo, etc.『舞踏?』東京、2013年12月 撮影: bozzo
Butoh?, in Tokyo, December 2013 Photo: bozzo**タニノクロウ**(劇作家・演出家「庭劇団ベニノ」代表)
[演劇／東京]**Kuro Tanino**(playwright, director and artistic director of
Niwa Gekidan Penino) [theater/Tokyo]
<http://www.niwagekidan.org>**継続助成対象期間**

2012年度から2014年度まで

2013年度までの助成金額(単位:円)

2012年度	2013年度	合計
2,500,000	2,500,000	5,000,000

2013年度の助成内容金額 ● 2,500,000円 (事業、会社設立経費等に充当)
スタジオ提供 ● 50日間**2013年度の主な活動**

2013年4月 ● 庭劇団ベニノ『大きなトランクの中の箱』東京 (森下スタジオ)

10月 ● 庭劇団ベニノ『大きなトランクの中の箱』京都 (「京都国際舞台芸術祭
(KYOTO EXPERIMENT) 2013」公式プログラム)2014年1-2月 ● 庭劇団ベニノ『誰も知らない貴方の部屋』北米ツアー
ニューヨーク、ミネアポリス、コロンバス、フィラデルフィア、
シアトル (Japan Society, Walker Art Center, Waxner Center for the Arts,
Philly Live Arts, and On the Boards) 他**Grant-receiving term**

From 2012 to 2014

Amount of continuous grants (in yen)

2012	2013	Total
2,500,000	2,500,000	5,000,000

Details on support during fiscal year 2013Grant: ¥2,500,000 (used for performances, etc.)
Studio Rental: 50 days**Major activities during fiscal year 2013**April 2013: *Box in the Big Trunk*, Niwa Gekidan Penino,
at Morishita Studio in TokyoOctober: *Box in the Big Trunk*, Niwa Gekidan Penino,
in "KYOTO EXPERIMENT2013", KyotoJanuary-February 2014: *The Room, Nobody Knows* USA tour,
Niwa Gekidan Penino, in New York, Minneapolis, Columbus,
Philadelphia, Seattle (Japan Society, Walker Art Center,
Waxner Center for the Arts, Philly Live Arts, and On the Boards)庭劇団ベニノ『大きなトランクの中の箱』森下スタジオ、2013年4月
撮影: 田中亜紀 *Box in the Big Trunk*, Niwa Gekidan Penino, at Morishita Studio,
April 2013 Photo: Aki Tanaka

**伊藤千枝**

(振付家・ダンサー「珍しいキノコ舞踊団」代表)
[舞踊／東京]

Chie Ito

(choreographer, dancer and artistic director of
Strange Kinoko Dance Company) [dance/Tokyo]
<http://www.strangekinoko.com/>

撮影: David Duval-Smith Photo: David Duval-Smith

継続助成対象期間

2012年度から2014年度まで

2013年度までの助成金額(単位:円)

2012年度	2013年度	合計
2,500,000	2,500,000	5,000,000

2013年度の助成内容

金額●2,500,000円(事業、研究、リサーチ等に充当)

スタジオ提供●90日間

2013年度の主な活動

2013年4月●珍しいキノコ舞踊団『動物の○』大阪(アートエリアB1)

9月●あいちトリエンナーレ2013「フェスティバルFUKUSHIMA! in Aichi!」イベント出演 愛知

パルテノン多摩サイトスベシフィックライブ「階段で踊る。踊り場で踊る。」東京(パルテノン多摩大階段ステージ)

2014年3月●珍しいキノコ舞踊団『金色時間、フェスティバルの最中。』東京(世田谷パブリックシアター)

年間を通じて森下スタジオにて「キノコメソッドワークショップ」を開催、他

Grant-receiving term

From 2012 to 2014

Amount of continuous grants (in yen)

2012	2013	Total
2,500,000	2,500,000	5,000,000

Details on support during fiscal year 2013

Grant: ¥2,500,000 (used for performances, research and study, etc.)

Studio Rental: 90 days

Major activities during fiscal year 2013

April 2013: *The animal's circle*, Strange Kinoko Dance Company at Artarea B1 in Osaka

September: Participated in "Project FUKUSHIMA! in Aichi!" in "Aichi Triennale", Aichi

"Kaidan de Odoru, Odoriba de Odoru" at Parthenon Tama in Tokyo

March 2014: *Kiniro no Jikan, Festival no Saicyu*, Strange Kinoko Dance Company, at Setagaya Public Theater in Tokyo

"Kinoko method Workshops" were held at Morishita Studio in Tokyo during fiscal year 2013



珍しいキノコ舞踊団『金色時間、フェスティバルの最中。』東京、2014年3月
撮影: 片岡陽太 *Kiniro no Jikan, Festival no Saicyu*, Strange Kinoko Dance Company, in Tokyo, March 2014. Photo: Yohta Kataoka

**松井周**

(劇作家・演出家・俳優「サンプル」代表)
[演劇／東京]

Shu Matsui

(playwright, director, actor and artistic director of
Sample) [theater/Tokyo]
<http://www.sample.net.org>

継続助成対象期間

2011年度から2013年度まで

2013年度までの助成金額(単位:円)

2011年度	2012年度	2013年度	合計
2,500,000	2,500,000	3,000,000	8,000,000

2013年度の助成内容

金額●3,000,000円(公演、自己研修費等に充当)

スタジオ提供●46日間

2013年度の主な活動

2013年4月●『自慢の息子』がオハイオノーザン大学にて上演される

8月●テスト・サンプル『遠足の練習』新潟(まつだい「農舞台」)

10月●文学座アトリエの会『未来を忘れる』脚本 東京(文学座アトリエ)

11月●サンプル『永い遠足』

東京(「フェスティバル/トーキョー13」公式プログラム)

責任編集雑誌サンプル1号『変態』発刊

2014年1月●サンプルワークショップ「世界を着せ替える」

東京(森下スタジオ)他

Grant-receiving term

From 2011 to 2013

Amount of continuous grants (in yen)

2012	2013	2013	Total
2,500,000	2,500,000	3,000,000	8,000,000

Details on support during fiscal year 2013

Grant: ¥3,000,000 (used for performances, research and study)

Studio Rental: 46 days

Major activities during fiscal year 2013

April 2013: *The Proud Son* presented by Ohio Northern University in Ohio

August: *Practice of school excursion*, test Sample, at Matsudai Noubutai in Niigata

October: *Put future beyond* (written by Shu Matsui)

presented by Bungaku-za at Atelier of Bungakuza in Tokyo

November: Published the first issue of magazine "Sample"

January 2014: Sample Workshop "Change your perspective of the World" at Morishita Studio in Tokyo, etc.



サンプル『永い遠足』東京、2013年11月 撮影:青木司
The Long Field Trip, Sample, in Tokyo, November 2013 Photo: Tsukasa Aoki

一 松井周の2011-2013年度の活動について

前田愛実(演劇ライター)

2010年に発表した『自慢の息子』で2011年の岸田國士戯曲賞を受賞。注目を集める中、同年にセゾン・シニア・フェローに選出され、3年の間に大きく活動のスケールを広げた。

サンプルでは、三鷹市芸術文化センター委嘱の太宰治作品をモチーフにした『ゲヘナにて』(2011年)や、『自慢の息子』のカップリング作ともいえる『女王の器』(2012年)、フェスティバル・トーキョー委嘱の『永い遠足』(2013年)などの新作を発表した。また2012年「越後妻有 大地の芸術祭」に招かれた『キオク REVERSIBLE』では、開催地の風土や地域の記憶を繊細にとりこんだ情感豊かな作品を発表し、創作手法や作風ともに新たな一面を見せた。

年に一回は再演も行っている。『地下室』(2006年初演)や『シフト』(2007年初演)など初期作品の再演は、東日本大震災以降の様々な社会状況や価値観の変化にともない、初演時とは劇的に異なる意味を孕むことが多くなり、思索をうながす刺激的な上演となった。

松井個人としても、文学座など外部へ戯曲を描き下ろす一方で、本谷有希子や岩井秀人といった同時代の才能ある作家の作品に客演し、俳優としても強い存在感を示した。劇団では作品発表のほかに、スタッフ・ワークや俳優のあり方を追求する内容の充実したワークショップを開催したり、劇団で雑誌「サンプル」の刊行を開始するなど、カンパニーのあり方もより多彩で魅力的になってきている。劇団の周辺にいる様々な優秀な人材を巻き込みながら、このような上演以外の活動を行うことが、いわば余白のような伸びしろを生み、カンパニーや松井本人にもよい影響を与えているのではないだろうか。

劇団創生期のサンプルは、当時様々に展開していた露悪傾向の強い劇団の代表格だった。年月を経るとそのような角はとれて攻撃性が弱まり、ついでに魅力も衰退する例は多いが、松井の場合、表現が多角化されたことで角はとれても、変わらず強度を持続している。歳をとるということも含めて、今後も注目し続けたいアーティストである。

— On Shu Matsui's activities between fiscal years 2011 to 2013

Manami Maeda, Theater Review Writer

Matsui won the Kishida Kunio Drama Award in 2011 for his play *The Treasured Son*, which was staged in 2010. It was the same year he gained attention that Matsui was selected as a Saison Fellow and expanded his scale of activities widely during the three years as a grantee.

At his own theater company, Sample, Matsui released new works such as *At Gehena* (2011), a play that was commissioned by Mitaka City Arts Center and based on the novels by Japanese author Osamu Dazai; *Capacity of the Queen* (2012), a play that can be viewed as another side of *The Treasured Son*; and *The Long Field Trip* (2013), which was commissioned by Festival/Tokyo. In 2012, Sample was invited to Echigo-Tsumari Art Field to present *REVERSIBLE*, an emotionally rich piece that delicately incorporated the nature and memories of the region it was performed in and showed a new side of the company's creative method and artistic style.

Sample has also held repeat performances of their past works each year. The repeat performances of their earlier works such as *BASEMENT* (premiered in 2006) and *SHIFT* (premiered in 2007) now contain drastically different meanings compared with their premieres in many cases after the various changes of the social situation and values in Japan following the Great East Japan Earthquake of March 2011, and the shows were stimulating and prompted audiences to reflect and philosophize.

As an individual, Matsui wrote new plays specifically for other theater companies such as Bungakuza, while also making a strong impression as an actor through guest appearances in plays written by those of his same generation like Yukiko Motoya and Hideto Iwai. Apart from just presenting plays on stage, his company is becoming more colorful and attractive by holding substantial public workshops such as those by his major crew members - including himself - giving lectures on playwriting, direction, acting, lighting, sound, stage design, producing, wardrobe, dramaturgy, etc., or those that pursued the theme of how actors should be. The company has also started publishing a magazine called Sample. Perhaps it can be said that these off-stage activities involving talented resources working with his company has created a sort of room for growth and is making a good influence on the company and Matsui himself.

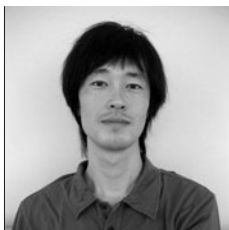
In its early years, Sample was considered as being the most typical company of sensationalism, which was a trend within the Japanese theater scene at that time. In most cases, such companies tend to mellow over the years and their aggressiveness becomes weak, and eventually their appeal declines, but even though Matsui has mellowed due to the diversification of his artistic expression, he still maintains his intensity as before. Matsui is an artist who deserves attention continually in the future as he grows older.



サンプル『ゲヘナにて』東京、2011年6月 撮影:青木司
At Gehena, Sample in Tokyo, June 2011 Photo: Tsukasa Aoki



サンプル『女王の器』神奈川、2012年2月 撮影:青木司
Capacity of the Queen, Sample in Kanagawa, February 2012 Photo: Tsukasa Aoki



山下残

(振付家)
[舞踊／京都]

Zan Yamashita

(choreographer) [dance/Kyoto]
<http://www.zanyamashita.com>

継続助成対象期間

2011年度から2013年度まで

2013年度までの助成金額(単位:円)

2011年度	2012年度	2013年度	合計
2,500,000	2,500,000	3,000,000	8,000,000

2013年度の助成内容

金額●3,000,000円(事業、自己研修、アトリエ運営等に充当)

2013年度の主な活動

2013年4月●『そこに書いてある』韓国(「Festival Bo:m」)

『せきをしめてひとり』スロベニア(「Exodos Festival」)

7月●『庭みたいなもの』京都(京都造形芸術大学 京都芸術劇場Studio 21)

8-9月●「EASTERN CONNECTION contemporary dance / Romania - Japan /

2013-2015(滞在製作プロジェクト)」に参加 ルーマニア

2014年2月●『伊藤キム×山下残』

神奈川(STスポット「国際舞台芸術ミーティング(TPAM) in 横浜2014」)

3月●『そこに書いてある』兵庫(AI・HALL)

Grant-receiving term

From 2011 to 2013

Amount of continuous grants (in yen)

2012	2013	2013	Total
2,500,000	2,500,000	3,000,000	8,000,000

Details on support during fiscal year 2013

Grant: ¥3,000,000 (used for performances, research and study, etc.)

Major activities during fiscal year 2013

April 2013: *IT IS WRITTEN THERE* in "Festival Bo:m", Korea

IT'S JUST ME, COUGHING in "Exodos Festival", Slovenia

July: *SOMETHING LIKE A GARDEN* at Studio21,

Kyoto University of Art & Design, Kyoto

August-September: Participated in "EASTERN CONNECTION contemporary dance / Romania - Japan / 2013-2015 (residence & creation project)", Romania

February 2014: *Kim Itoh x Zan Yamashita* at ST Spot

("Performing Arts Meeting in Yokohama 2014") in Kanagawa

March: *IT IS WRITTEN THERE* at AI-HALL in Hyogo

一 山下残の2011-2013年度の活動について

古後奈緒子(ダンス研究・批評)

2014年3月に伊丹アイホールで再演された『そこに書いてある』(2002年初演)は、京都、ブリュッセル、イスタンブール、そしてソウルでリメイクされた山下残の初期の代表作だ。この初の劇場公演作品には、90年代京都での異種混交を通してつくられた創作断片と親密圏が流れ込み、そこから関係をパブリックに開いてゆく探求や、『透明人間』(2003年初演)『せきをしめてひとり』(2004年初演)に続く言葉と振付テキストの間隙における実験や、『船乗りたち』(2005年初演)へ連なる知覚と運動した身体技術の探求や、『羊のドリーム』(2005年初演)『動物の演劇』(2007年初演)を思い出させる人間の視線を異化する姿勢、『庭みたいなもの』(2011年初演)に見られる新たな関係づけへの欲求が展開されていた。

初演から12年を経た再演には、さらにフェロー期間を含む2007年以降の彼の活動における展開の一端をうかがい知ることができる。2007年以降は海外のフェスティバルやレジデンスによる制作が相次ぎ、異なるジャンルのアーティストと同様、海外のダンサーや振付家とのコラボレーションが増えている。一般に、言葉や身体技術を共有しないダンサーとの共同作業は、非母語での、あるいは言語を介しない即興的なコミュニケーションなど、アーティスト同士の交換の方法の多様化につながると思われる。本作にも、親密圏の公共化の異文化間でのヴァリエーションが、アーティスト間の対話を観客に開くための、基本的なコミュニケーション行為をパフォーマンスとして構造化する手法や、さらに親密さの基盤となり一部素材のソースでもあった初演時のパフォーマーの仕事を、初演から遠い韓国人パフォーマーに移植する手続きの中に認められる。とりわけ9・11についての語りから替えた阪神淡路大震災の当事者の語りは、親族による通訳を介することで、震災という最新のものでは生々しい記憶の過去の層を参照し、当時からみた未来の視点、生き延びた者の20年という時間、母と娘という親密さ、異なる言語の翻訳という距離を複合的に組み合わせることで、個々の観客の事件に対する異なる距離を縫合する豊かな場面へと再編された。これまで他の作品でも字幕や書物の中で意味の伝達的な役割に甘んじていた通訳が、本公演ではライブのパフォーマーとして観客との関係の構築に貢献した点は、文化の／文化間の移動により形成される多様な境界領域を形成する行為の一つとして、今後の展開が注目される。



『そこに書いてある』兵庫、2014年3月
IT IS WRITTEN THERE in Hyogo, March 2014

— On Zan Yamashita's activities between fiscal years 2011 to 2013
Naoko Kogo, Dance Researcher and Critic

It is written there (premiered in 2002), which was staged again in March 2014 at Al-Hall in Itami and then was remade in Kyoto, Brussels, Istanbul, and Seoul, is one of Zan Yamashita's major works from his early period. The creative fragments and intimate sphere that were made through the mix of various factors in Kyoto of the 1990s flowed into this first work of Yamashita's that was shown in a theater. The work eventually led Yamashita to pursue how to open up and relate his work with the public and to create pieces that experimented with the gap between words and choreography texts, such as *Invisible Man* (premiered in 2003), and *It is just me coughing* (premiered in 2004), or represented his search for physical techniques in sync with perception like in *The Sailors* (premiered in 2005), or his stance to defamiliarize the gaze of human beings that were reflected in *Dream of Sheep* (premiered in 2005) and *Animal Theater* (premiered in 2007), and the development of his desire for a new logics of linkage that was shown in *It is something like a garden* (premiered in 2011).

The recent re-performance of *It is written there* after its premiere twelve years ago gives something of an insight of the development of his activities since 2007 including the years as a Saison Fellow. Ever since 2007, Yamashita has been involved in productions at festivals and residencies held outside of Japan one after the other, and collaborations with foreign dancers and choreographers as well as opportunities for him to work with artists from other genres have increased. It is said in general that collaborations with dancers who do not share the same language or physical techniques lead to the diversification of artistic exchange, such as using a non-native language or through nonverbal improvised communication. In the case of *It is written there*, intercultural variants of the communalization of intimate spheres could be seen in the technique of organizing actions of basic communication into performances in order to open and share the dialogue among artists with audiences, or within the process of transplanting the work of the performers of its original premiere that was the basis of the intimacy captured in the piece and also part of the source of its material to Korean performers for its re-performance, which was far away from the style of its premiere. Especially the narrative that was switched to those involved in the Hanshin-Awaji Great Earthquake from the original one about 9/11 and referred to the past layer of theme of earthquakes, the most recent memory of which is painfully vivid, was effective through the translations by the relatives, and was reorganized into prolific scenes that wound together the different distances that each audience member felt towards the incident by integrally combining elements such as perspectives towards the future at that time, or the time of twenty years of those who survived, the intimacy between mother and

daughter, and the distance that arises in translations of different languages. Translation usually means subtitles in other works or just playing the role of transmitting meanings in books, but the fact that in this performance the live performers contributed in building a relationship with the audience is noteworthy as an act of creating versatile interdisciplinary fields by the transfer of culture or the shift between different cultures, and this makes us look forward to Yamashita's further developments in the future.



『そこに書いてある』兵庫、2014年3月
IT IS WRITTEN THERE in Hyogo, March 2014



『庭みたいなもの』神奈川、2011年9月 撮影：松本和幸
It is something like a garden, in Kanagawa, September 2011
Photo: Kazuyuki Matsumoto



山田うん

(振付家・ダンサー「Co. 山田うん」代表)
[舞踊／東京]

Un Yamada

(choreographer, dancer and artistic director of
Co. Yamada Un) [dance/Tokyo]
<http://yamadaun.jp/>

撮影：姫田蘭 Photo: Ran Himeda

継続助成対象期間

2011年度から2013年度まで

2013年度までの助成金額(単位:円)

2011年度	2012年度	2013年度	合計
2,500,000	2,500,000	3,000,000	8,000,000

2013年度の助成内容

金額●3,000,000円(公演、自己研修、制作人件費等に充当)
スタジオ提供●36日間

2013年度の主な活動

2013年5月●山田うんソロ『ディクテ』
北京(「北京 Nanluoguxiang シアターフェスティバル」)
10月、2014年2月●池田扶美代 × 山田うん『amness』オーストリア、神奈川、ベルギー(「Steirischer Herbst Graz」、KAAT 神奈川芸術劇場、
「CC. De Grote Post」)
12月-2014年2月●Co.山田うん『春の祭典』愛知、東京、福島
(愛知県芸術劇場、スパイラルホール、いわき芸術文化交流館アリオス)
12月●Co.山田うん『季節のない街』石川(金沢市民芸術村 ドラマ工房)
その他、国内各地でワークショップを多数実施、他

Grant-receiving term

From 2011 to 2013

Amount of continuous grants (in yen)

2012	2013	2013	Total
2,500,000	2,500,000	3,000,000	8,000,000

Details on support during fiscal year 2013

Grant: ¥3,000,000 (used for performances, research and study, management fees, etc.)

Studio Rental: 36 days

Major activities during fiscal year 2013

May 2013: *DICTEE*, Un Yamada solo dance, in "Beijing Nanluoguxiang theatre festival"

October, February 2014: *amness*, Fumiyo Ikeda × Un Yamada, in Austria, Kanagawa and Belgium ("Steirischer Herbst Graz", KAAT Kanagawa Arts Theatre, "CC. De Grote Post")

December-February 2014: *The Rite of Spring / The Wedding*, Co. Yamada Un, in Aichi, Tokyo and Fukushima (Aichi Arts Center, Spiral hall, Iwaki performing arts center)

December: *Town With No Seasons*, Co. Yamada Un, at Kanazawa Citizen's Art Center in Ishikawa

Many Workshops were held in Japan during fiscal year 2013, etc.

— 山田うんの2011-2013年度の活動について

宮川麻理子(日本学術振興会特別研究員DC(東京大学大学院))

ダンサーという存在が社会とつながりを持つこと。あるいはダンサーが社会に必要な存在であること。ダンスカンパニー「Co.山田うん」を主宰する振付家・山田うんの活動は、「踊ること」と「生きること」を、身体を通して接続しつつ、舞台芸術としてのダンスという枠組みを超えていく。3年間の彼女の取り組みは、ソロあるいはカンパニーの公演はもちろんのこと、多くの時間をワークショップなどのアウトリーチ活動に充て、プロ・アマという枠にとらわれずに柔軟にダンスを人々の手に渡していく活動であった。例えば2014年2月の『春告鳥』のように、ワークショップ参加者とともに作品を作る試みも行われた。

Co.山田うんはまた、カンパニーとして大きな成長を遂げている。レパートリー作品が蓄積され、2010年初演の『ショーメン』や、バレエの古典に挑んだ2013年初演の『春の祭典』などが各地で上演された。エネルギッシュな群舞や細部へのこだわりが見られる山田の振付は安定したクオリティを保ち、かつ作品ごとに新たな挑戦も見受けられる。所属ダンサーの技術も多彩な振付の要請に応えられるレベルにあり、山田と二人で踊っても拮抗できる存在となりつつある川合ロンなど、カンパニーから着実にダンサーが育っている。

山田はソロおよびデュオでも作品を発表し、2011年に『ディクテ』、2013年には池田扶美代とともに『amness』を制作した。前者はテレサ・ハッキオン・チャのテキストから着想されたもので、再演を重ね、2013年には北京でも上演されるなど好評を得た。長期的に取り組んだ『amness』は、俯瞰的な視点から振付を行っていた山田にとって、違う角度から作品を創作する機会となった。この作品もヨーロッパを中心にツアーが行われている。

「踊ること」の楽しさが前面に出てくるワークショップや作品でコンテンポラリーダンスの境界を広げつつ、一方では身体・ダンスのあり方を正面から探求しており、この両輪のバランスを絶妙に展開しているのが現在の山田の活動といえよう。



Co. 山田うん『春の祭典』愛知、2013年12月 撮影：羽鳥直志

The Rite of Spring, Co.Yamada Un, in Aichi, December 2013

Photo: Naoshi Hatori

— On Un Yamada's activities between fiscal years 2011 to 2013

Mariko Miyagawa, JSPS Research Fellow, The University of Tokyo

The activities by Un Yamada, artistic director of the dance company Co. Yamada Un and choreographer, connect "to dance" and "to live" through the physical body and go beyond the framework of dance as a performing art. What really matters to Yamada are the existence of a dancer having a link with society, or a dancer being an existence that is necessary to society. During the three years as a Saison Fellow, she naturally worked on her solo or company work while also devoting much of her time for outreach activities such as workshops, and delivered dance to people in a flexible way while defying the boundaries of professionals and amateurs. For example, in *Nightingale*, which was shown in February 2014, Yamada attempted to create a piece with her workshop members.

Additionally, Co. Yamada Un has grown well as a company. It has accumulated a repertoire of works that has been performed in various locations, including *SHOMEN*, which premiered in 2010, and *Le Sacre du Printemps*, which premiered in 2013 and challenged the work of classical ballet. From her energetic ensemble pieces and her attention to detail, Yamada showed that she maintains a steady quality in her choreography and an eagerness to face new challenges in each work. The techniques of her company's dancers have reached a level to meet various kinds of choreographic requirements, and the members of her company have progressed steadily in their abilities as dancers like Llon Kawai, who has danced together with Yamada and is becoming a performer with the capability to compete with her.

Yamada also released both solo and duo works during her three years as a Saison Fellow: *DICTEE* in 2011, and *amness* with Fumiyo Ikeda in 2013, respectively. The former piece was conceived from the text by Theresa Hak Kyung Cha, and was well-received after being re-performed a number of times and was even shown in Beijing in 2013. For Yamada, who usually choreographs from a comprehensive perspective, *amness*, which was a project that she worked on for a long period of time, gave her an opportunity to create work from a different approach. This piece also went on tour, mainly in Europe.

While expanding the boundaries of contemporary dance through workshops and her creations from which the enjoyment of "to dance" emerges to the front, Yamada, on the other hand, directly explores how the body/dance should be, and it can be said that the way how she superbly cultivates the balance of these two wheels best describes her present activities.



Co. 山田うん『結婚』愛知、2013年12月 撮影：羽鳥直志
The Wedding, Co.Yamada Un, in Aichi, December 2013 Photo: Naoshi Hatori



山田うんソロダンス『ディクテ』京都、2011年8月 撮影：草本利枝
DICTEE, Un Yamada solo dance in Kyoto, August 2011 Photo: Toshie Kusamoto

Ⅱ パートナーシップ・プログラム

Partnership Programs

1 現代演劇・舞踊助成 —— 創造環境整備

Contemporary Theater and Dance -Creative Environment Improvement Program

創造環境整備プログラムでは、2013年度は10件の事業に対して助成を行った。

本プログラムでは、現代演劇・舞踊界の人材育成、システム改善、情報交流などの創造基盤を支える環境の整備を目的にした事業を支援している。

2013年度は、2012年度に引き続き、**舞台芸術制作者 オープンネットワーク** に対して助成を行った。2013年2月に正式に発足して以降、約160名の会員を集め、主たる事業として、文化政策、国際交流、地域協働をテーマとする、年3-4回の委員会を、また全体でのシンポジウムを2回、国内各地で実施した。舞台芸術を取り巻く環境の問題や最新のトピックを巡って情報共有、意見交換、議論を通じ、舞台芸術制作者のネットワークを顕在化できた。また、会員の提案による企画も複数回実施されたほか、「Asia Producers' Platform」の日本のパートナーになるなど、国際的ネットワークとしての活動も始まっている。当初の目的の一つである「アドボカシー団体としての活動」の具体化も待たれる。また、今年度は、京都で振付家として活動しているきたまりによる「Dance Fanfare Kyoto」を支援した。2012年に開催されたダンス・コ

ミュニティー・フォーラム「We dance KYOTO」でプログラム・ディレクターを務めたきたまりが、関西のアーティストが自発的に、興味を持っていること／探求したいことを交換する場を設け、それぞれが所属するコミュニティに依存し孤立化する創作体制を問題点に掲げ、互いにプロセスを共有し、問題意識を明快に言語化していくことを目指した。演劇の演出家とダンサーが協働で作品を創るプログラムなど、より多角的でクリエイティブな機会を提供し、期間中は関西圏の振付家、ダンサー、関係者が数多く参加している様子がうかがえた。一過性のイベントに終わらず、参加者の今後の活動に生かされることを期待したい。また**吾妻橋 ダンスクロッシング 実行委員会**による、「SNAC パフォーマンス・シリーズ2013」は、2004年から開催されてきた「吾妻橋 ダンスクロッシング」において紹介されてきた、「ジャンルを横断する」、「ジャンルのほざまにある」表現を恒常的に紹介する場を作り、作家が育ち、活動を発展的に続けていけるようにするため、個々の上演企画を繋いで線にしていって連続シリーズとして提示するというもの。実験的な公演やコラボレーションの機会を参加者に提供して

吾妻橋ダンスクロッシング実行委員会
「SNAC パフォーマンス・シリーズ2013」東京、2014年2月
"SNAC Performance Series 2013" organized
by Azumabashi Dance Crossing Committee in Tokyo, February 2014.



り、上演作品の中には、この機会だからこそ
と思われるものもあり、継続が望まれる。3
年目の助成となった**ドリフターズ・インターナ
ショナル**による、「ドリフターズ・サマースク
ール 2013」は、2010年度から始まった、意欲
のある若手を対象とする、ダンス、建築・空
間美術、ファッション、制作等を横断する実
践的な講座。2013年度は、コースの区別を
なくし、少人数制とし、各自が「なぜ作品を
制作し発表するのか」を言語化したことで表
現者としての自覚や目的意識が生まれたそ
うだ。今年度をもって4年間開催してきた同
事業は一段落となるが、2013年度は、これ
までの受講生のステップアップ企画も開催さ
れ、今後の受講生の活躍が楽しみである。3
年間にわたってスタジオを貸与した**ジャパン・
コンテンポラリーダンス・ネットワーク**による
「JCDNダンス作品 クリエイション＋全国巡回
プロジェクト「踊りに行くぜ!!」II(セカンド)
vol.4」は作品創作をサポートする新たなシス
テムを全国のパートナーと共同して創るプロ
ジェクト。2013年度は、経験のある作家部門
の新設により、上演プログラムが充実したも
のとなった。また過去の参加者の再演プロ
グラムもでき、作品の質の向上をさらに後押

しするシステムとなった。各地主催者が地域
の関係者との連携・協力体制をつくっている
との報告もあり、地域でのコンテンポラリ
ダンスの活性化につながるのではないかと
思われる。

その他、東京から鹿児島に拠点を移した
コンタクト・インプロビゼーショングループ C.I.co
による、アジアのインプロビゼーション・ダン
スのアーティストのフェスティバル「i-Dance Ja
pan 2013」では、東京会場でコンタクト・イン
プロビゼーションのパイオニア、ナンシー・S・ス
ミスを招聘して集中ワークショップを行うな
ど、それぞれに成果を上げた。



きたまり「Dance Fanfare Kyoto」京都、2013年7月 撮影：相模友士郎
“Dance Fanfare Kyoto” organized by Kitamari in Kyoto, July 2013.
Photo: Yujiro Sagami

The Creative Environment Improvement Program awarded grants to ten projects in 2013.

This program supports projects that aim to improve the basic framework for creative activities in the fields of contemporary theater and dance such as personnel training, system improvement, and information exchange.

In 2013, we supported the **Open Network for Performing Arts Management** in continuation of 2012. The Network, since its official establishment in February 2013, has gathered approximately 160 members. Its main activities are organized through its committee on cultural policy, committee on international exchange and committee on community-based co-working that held three or four discrete meetings and two plenary meetings annually in various places in Japan. The network of performing arts managers has become visible through information sharing, exchange of opinions and discussions on tasks and newest topics involved in the environment that surround performing arts. Projects proposed by members were also carried out, and the Network has started to be internationally active such as becoming a Japanese partner of Asia Producers' Platform. We look forward to the materialization of one of their primary objectives, "activity as a advocacy organization." We also supported "Dance Fanfare Kyoto" by **Kitamari**, a choreographer based in Kyoto. Kitamari, having served as Program Director for a dance community forum "We dance KYOTO" in 2012, tried to share processes and clearly verbalize awareness

of issues through organizing a place for artists based in Kansai in which they can spontaneously exchange what they are interested in or want to explore, raising questions on their creation schemes where they depend on their own community and thus accelerating isolation. The event offered more multilateral and creative opportunities, for example, for theater makers and dancers to create together. A number of choreographers, dancers and other types of performing arts practitioners participated in the event, which we expect to continue and contribute to the participants' future activities. "SNAC Performance Series 2013" by **Azumabashi Dance Crossing Committee** is a series of events where expressions that are "genre-crossing" or exist "on the boundary between genres," which had been introduced at "Azumabashi Dance Crossing" since 2004, are constantly introduced so that artists can train themselves and individual productions are connected to form a line enabling the artists develop and continue their activities. The artists who participate are offered opportunities for experimental performances and collaborations. We would like to continually support the project, since in the events there were performances that can be found probably only in this sort of project. "Drifters Summer School 2013" by **NPO Drifters International**, which we have supported for three years, is a school for ambitious young practitioners that teaches practical skills required in dance, architecture, spatial art, fashion, producing, etc. In 2013, the school

removed the differentiation of the courses and limited the number of students to ask each of them to verbalize "why you create works and present them," which stimulated their awareness of involvement in expression and objectives. The project has come to the end of the first stage in its fourth year, but as indicated by "Drifters Summer School Advance" for students in the past that was first held in 2013, we look forward to the students' future activities. "We're Gonna Go Dancing!! II -Second- vol.4" by **NPO Japan Contemporary Dance Network**, for which we have offered Morishita Studio for three years, is a project for developing a new system for supporting creations in cooperation with partners across Japan. In 2013, a division for experienced artists was newly established, which enriched the performance programs. Another new program for presenting works by past participants again furthered improvement of the quality of works. It is reported that the organizer of each region has been building partnerships with local stakeholders, which should contribute to activation of contemporary dance in the regions.

Each project showed successful results respectively; another example would be a festival involving Asian artists who engage in dance improvisation "i-Dance Japan 2013" by **Contact Improvisation Group C.I.co.** that moved its base from Tokyo to Kagoshima, in which intensive workshops inviting the pioneer of contact improvisation Nancy S. Smith were held in Tokyo.



ドリフターズ・インターナショナル「ドリフターズ・サマースクール2013」
神奈川、2013年9月 撮影：宮石悠平
"Drifters Summer School 2013" organized by Drifters International
in Kanagawa, September 2013. Photo: Yuhei Miyaishi



ジャパン・コンテンポラリーダンス・ネットワーク
「踊りに行くぜ!!」II (セカンド) vol.4 東京、2014年3月 撮影：GO
"We're Gonna Go Dancing!!" II -Second- vol.4 organized by
Japan Contemporary Dance Network in Tokyo, March 2014. Photo: GO



コンタクト・インプロビゼーショングループ C.I.co「i-Dance Japan 2013」
森下スタジオ、2013年12月 撮影：鹿島聖子
"i-Dance Japan 2013" organized by Contact Improvisation
Group C.I.co at Morishita Studio., December 2013.
Photo: Shoko Kashima

— 吾妻橋ダンスクロッシング実行委員会

SNAC パフォーマンス・シリーズ2013

2013年10月12日 - 2014年3月2日
東京(清澄白河 SNAC)
600,000円

— きたまり

Dance Fanfare Kyoto

2013年7月5日 - 7日
京都(元・立誠小学校)
600,000円

— Ko & Edge Co.

ダンスラボラトリー 瞬間の学校 vol.2

2013年6月29日 - 7月3日
東京(森下スタジオ)
スタジオ提供●5日間
ゲストルーム提供●7日間

— コンタクト・インプロビゼーショングループ C.I.co

i-Dance Japan 2013

2013年10月7日 - 12月8日
鹿児島、東京(十曽青少年旅行村、伊佐市文化会館、霧島国際音楽ホール
みやまコンセル、霧島自然ふれあいセンター、森下スタジオ)
600,000円
スタジオ提供●4日間
ゲストルーム提供●8日間

— 特定非営利活動法人

ジャパン・コンテンポラリーダンス・ネットワーク

JCDNダンス作品クリエイション+全国巡回プロジェクト

「踊りに行くぜ!!」Ⅱ(セカンド) vol.4

2014年1月10日 - 3月28日
北海道、鳥取、宮城、福岡、東京、京都(コンカリーニョ、鳥の劇場、
仙台市宮城野区文化センターパトナシアター、イムズホール、
京都芸術センター、アサヒ・アートスクエア)
スタジオ提供●48日間

— Dance Theatre LUDENS

第7回東京国際ダンスワークショップ ReAction

2013年4月27日 - 12月26日
東京(森下スタジオ)
500,000円
スタジオ提供●18日間
ゲストルーム提供●9日間

— 特定非営利活動法人 ドリフターズ・インターナショナル

ドリフターズ・サマースクール2013

2013年7月20日 - 9月22日
東京、神奈川(森下スタジオ、泰生ビル、住吉町新井ビル)
1,000,000円
スタジオ提供●76日間

— 東京ダンス機構

ビタゴラス2、3

2013年4月26日 - 12月23日
東京(森下スタジオ)
スタジオ提供●29日間
ゲストルーム提供●20日間

— 舞台芸術制作者オープンネットワーク

舞台芸術制作者オープンネットワーク

2013年4月1日 - 2014年3月31日
東京、京都、鳥取、神奈川他(森下スタジオ、京都芸術センター、
鳥の劇場、ヨコハマ創造都市センター他)
1,000,000円
スタジオ提供●2日間

— ボディ・アーツ・ラボラトリー

Whenever Wherever Festival 2013

2013年10月7日 - 10月27日
東京(森下スタジオ)
600,000円
スタジオ提供●21日間
ゲストルーム提供●21日間

Azumabashi Dance Crossing Committee
SNAC Performance Series 2013

October 12, 2013–March 2, 2014
Tokyo (SNAC)
¥600,000

Body Arts Laboratory
Whenever Wherever Festival 2013

October 7–October 27, 2013
Tokyo (Morishita Studio)
¥600,000
Studio Rental: 21 days
Guest Room Rental: 21 days

Contact Improvisation Group C.I.co.
i-Dance Japan 2013

October 7–December 8, 2013
Kagoshima, Tokyo (Jisso Camp site, Isa City Cultural Hall, Miyama Concer, Kirishima Shizen Fureai Center, Morishita Studio)
¥600,000
Studio Rental: 4 days
Guest Room Rental: 8 days

Dance Theatre LUDENS
The 7th International Dance Workshop ReAction

April 27–December 26, 2013
Tokyo (Morishita Studio)
¥500,000
Studio Rental: 18 days
Guest Room Rental: 9 days

NPO Drifters International
Drifters Summer School 2013

July 20–September 22, 2013
Tokyo, Kanagawa (Morishita Studio, Taisei building, Arai building)
¥1,000,000
Studio Rental: 76 days

NPO Japan Contemporary Dance Network
We're Gonna Go Dancing!! II –Second– vol.4

January 10–March 28, 2014
Sapporo, Tottori, Sendai, Fukuoka, Tokyo, Kyoto (Concarino, BIRD Theatre, sendaishi miyaginoku bunnkacenter PaToNa theater, IMS Hall, Asahi Art Square, Kyoto Art Center)
Studio Rental: 48 days

Kitamari
Dance Fanfare Kyoto

July 5–July 7, 2013
Kyoto (Former Rissei Elementary School)
¥600,000

Ko & Edge Co.
Ko murobushi dance laboratory
The school of moment vol.2

June 29–July 3, 2013
Tokyo (Morishita Studio)
Studio Rental: 5 days
Guest Room Rental: 7 days

Open Network for Performing Arts Management
Open Network for Performing Arts Management

April 1, 2012–March 31, 2014
Tokyo, Kyoto, Tottori, Kanagawa, etc. (Morishita Studio, Kyoto Art Center, BIRD Theatre TOTTORI, YOKOHAMA CREATIVECITY CENTER)
¥1,000,000
Studio Rental: 2 days

Performing Arts System TOKYO
Pythagoras 2,3

April 26–December 23, 2013
Tokyo (Morishita studio)
Studio Rental: 29 days
Guest Room Rental: 20 days

Ⅱ パートナーシップ・プログラム

Partnership Programs

2 現代演劇・舞踊助成 —— 国際プロジェクト支援

Contemporary Theater and Dance -International Projects Support Program

国際交流の推進に中心的な役割を果たしているカンパニー/アーティストが主催する2年以上の国際プロジェクトに対して最長3年にわたって助成金および希望者には森下スタジオ、ゲストルームの使用優先権が付与される。2013年度は、新規が6件、2012年度からの継続が11件採択されたうち10件の事業が実施された。

新規採択の内2件は、海外で活躍する日本人振付家によるプロジェクトだ。2011-12年のジュニア・フェローでもある**S20**の梅田宏明に対して、今年度は『4. テンポラル パターン』の公演を支援した。これは、台湾、インド、カンボジアの異なるスタイルを持つ3人のダンサーをプロジェクトに招き、梅田の振付システムの統一性の中で、どのように、それぞれの違いやアイデンティティを発揮できるのかを試みた作品だ。2013年3月に台湾で初演したのち、愛知、シンガポールでの公演を実施し関心を集めた。梅田は、今後も多様な文化と身体を包括する振付システムの開発をすすめていきたいと述べている。また**Kaori Ito** (伊藤郁女) は、ベルギーのアントワープを拠点とするレ・バレ・セ・ド・ラ・ベと契約を結び、ヨーロッパで目覚ましい活躍を展開しているダンサー／振付家だ。『Asobi』は、伊藤がセ・ド・ラ・ベに企画提案をして実施が決まったプロジェクトで、2013年12月に初演を迎えた。作品名の『Asobi』は「遊び」を日本文化的なものとしてとらえ、義務

的な事柄から外れた陽気さ、娯楽、小さな妄想、また一方で、男女の駆け引き、エロティックなゲームなどを意味している。2014年には東京公演も決まり、2015年に向けてのツアーも計画が進行している。

「ジャパン・クール」という旗振りのもと、近年、日本からゲーム、漫画、アニメなどポップカルチャーの支援、輸出が盛んになっているが、海外在住で高い評価を受けている芸術家への支援まではなかなか考慮されない。日本の現代文化の紹介という面では、既に現地で大きな貢献を果たしていることを考えると、もっと日本からの支援を考えていくべきなのではないか。が、一方で、ネット社会とはいえ、海外での活動の実態や情報が日本に良く伝わって来ないという側面もあり、今後の本プログラムの課題だ。

Fundatia Gabriela Tudorによる『EASTERN CONNECTION』は、2011年度 ヴィジティング・フェローであるコスミン・マノレスクがレジデンス滞在中に知り合った日本のパートナーたちと立ち上げたプロジェクトで、今後3年間、ダンサー、振付家、プロデューサー、批評家などが、新しいメンバーを募りながら、一緒に両国のダンスをリサーチ、ワークショップを実施することから始め、最終年度には、作品創作に繋げてフェスティバルを開催することを考えている。初年度はルーマニアで実施された。2014年度は日本で開催される予定だ。



S20『4. テンポラル パターン』愛知、2013年9月 撮影：山方伸
4 Temporal Pattern, S20 in Aichi, September 2013. Photo: Shin Yamagata



Kaori Ito / les ballets C de la B vzw『Asobi』 撮影：Chris Van Der Burgh
Asobi, Kaori Ito / les ballets C de la B vzw Photo: Chris Van Der Burgh

K-kunstによる「国際協働制作(国内)ボゴダ×日本<外>の千夜一夜」は、コロンビアのマヌスデア・アントロポジア・エセニアをパートナーに、ボゴダより若いダンサーを招き、現地で流通している「Butoh(舞踏)」を、舞踏家の室伏鴻指導のもと、日本で、日本の若いダンサーと共に、ワークショップ、創作、上演ツアーを通して再考察する試みで、今年度は、ボゴダより6名のダンサーを含めた関係者が参加した。

富士山アネット×Dance Theatre 4P国際共同制作は、企画としては2年目を迎え、今年度は昨年の韓国公演を経て、作品のブラッシュアップをはかり、日本公演を実現した。ダンス創作を通じて若い世代が日韓関係の問題を繰り返し話し合いながら、作品を深化させていった。

今年度、助成期間の最終年度を迎えたシンガポールの劇団The Necessary Stageによる『モバイル2:フラット・シティーズ』は、2012年に日本の若手アーティストたちと対話、ワークショップを繰り返しながら、構想を練った準備の成果が、シンガポールとマレーシアで上演された。国際交流プロジェクトでは異文化の理解が重要なテーマになるが、今回の日本側の参加者たちが演劇プロデュースユニット、モトリアムパンツという20代中心の劇団であったため世代間格差もひとつの異文化交流のポイントになったという報告が興味深い。本作品は、シンガポール

のザ・ビジネス・タイムズ紙に、2013年の演劇トップ10として選ばれた。ちなみに、本紙には、本年度の助成対象者の前田司郎率いる五反田団のシンガポール公演も取り上げられている。

同じく最終年度を迎えた京都国際舞台芸術祭実行委員会によるブラジル・日本「レジデンス+クリエイション」共同プロジェクトは、今年度は、ブラジルからの参加者マルセロ・エヴェリンの昨年度のワークショップの成果として創作された新作の初演を実施した。日本側アーティストの参加が諸事情によりキャンセルとなったが、代替として包括的に日本のコンテンポラリーダンスの状況を初めて紹介するイベントをリオデジャネイロで実施することができた。

劇団解体社による「日本—ポーランド国際共同制作ドキュメント『ポストヒューマンシアター』」は、3年にわたり、テアトル・シネマをパートナーに「人間が人間としてあつかわれなくなった時代」に演劇がどう応答するのか、あるいは「失われた人間の身振り」の回復といったテーマを上演やシンポジウムで探求してきた。その論考は「ドキュメント・ポストヒューマン・シアター 2011-2014」として発刊された。

オフィスアルブは、主宰者の北村明子のインドネシアでの以前からのリサーチやワークショップが、プロジェクト『To Belong -cyclo-nicdream-』として稼働し、3年では足りない

スケールの取り組みに繋がった。助成対象期間としては、本年度が最後になるが、故スラムット・グンドノ、ユディ・タジュディン等の協働を得て、サイクロンのような展開が今後続くことを期待している(viewpoint67号)。

ジャパン・コンテンポラリー・ダンス・ネットワークによる「日本・フィンランド コンテンポラリーダンス レジデンス エクスチェンジ 共同製作プログラム」は、フィンランドからはエルヴィ・シレン、日本からは坂本公成が互いの国で選出したダンサーと交換滞在製作を行った事業である。京都とヘルシンキで作品を発表し、最終年度は、さらなる上演機会を得るために国際舞台芸術ミーティング・イン・横浜で上演を行った。

ダムタイプの高谷史郎・新作パフォーマンス『CHROMA(クロマ)』国際協働制作プロジェクトは、2013年度は、昨年度のびわ湖ホールでの上演をきっかけに、マルセイユのフェスティバルに招聘された。2014年には札幌国際芸術祭への招聘が決定している。

その他の継続助成対象事業も、順調に事業が遂行している。快挙だったのは、韓国の劇作家、演出家のソン・ギウンと多田淳之介による「カルメギ・プロジェクト」が、韓国の新聞社で東亜日報が主催する第50回東亜演劇賞において、演出賞、作品賞、舞台美術・技術賞の3部門の賞を獲得したことだ。日本人演出家としては初の受賞である。2014年秋に日本公演が決定している。



富士山アネット「富士山アネット×Dance Theatre 4P 国際共同制作『The Absence of the City』」東京 2013年10月 撮影:生井秀樹
"Fujiyama Annette×Dance Theatre 4P International Co-Production *The Absence of the City*" organized by Fujiyama Annette in Tokyo, October 2013. Photo: Hideki Namai



The Necessary Stage Ltd「『Mobile II—Flat Cities』 モバイル2:フラット・シティーズ」シンガポール 2013年8月 撮影:The Necessary Stage
Mobile II: Flat Cities, The Necessary Stage Ltd, in Singapore, August 2013. Photo: The Necessary Stage

This program awards grants for up to three years to international exchange projects that will take place for more than two years by Japanese performing arts companies or artists who are playing an important role in promoting international exchange. Priority use of Morishita Studio is also awarded upon request. In 2013, six projects were newly chosen as grantees in addition to the eleven ongoing projects since the previous year, among which ten projects were carried out.

Two of the newly chosen projects were by Japanese choreographers based abroad. This year we supported Hiroaki Umeda with **S20**, who was also a Junior Fellow 2011-12, for their performance **4. Temporal Pattern**. This piece tried to articulate identities of three dancers from Taiwan, India and Cambodia with different styles in the consistency of Umeda's choreography system. After the premiere in Taiwan in March 2013, the piece toured in Aichi and Singapore and garnered attention. Umeda says that he intends to develop the choreography system that comprehends diverse cultures and bodies. **Kaori Ito** is a dancer/choreographer who has made a contract with les ballets C de la B vzw based in Antwerp, Belgium and has been intensely working in Europe. **Asobi** is a project that Ito proposed to the company and was premiered in December 2013. The title **Asobi** means "Play" and indicates that this piece is about gaiety free from duties, entertainment, little delusions, tactics between men and women and erotic games with a touch of Japanese culture. It will be shown in Tokyo in 2014, and a tour in 2015 has been planned.

Under the banner of "Japan Cool," recently, pop cultures such as video games, comics or animations have been supported and exported, but support for highly acknowledged Japanese

artists based abroad has not really been considered. In terms of dissemination of Japanese contemporary culture, support for them should be important if their contributions to it in their respective bases are taken into account. However, on the other hand, information of their activities has not been delivered to us in detail even in this Internet society. We consider this to be one of the tasks of that this program has to work on.

"EASTERN CONNECTION" by **Fundatia Gabriela Tudor** is a project that Cosmin Manolescu, a 2011 Visiting Fellow, established together with Japanese partners whom he came to know during the residency period. In three years, it is planned to have dancers, choreographers, producers and critics start from research and workshops of Romanian and Japanese dance inviting new members and to organize a festival that features creations as the results of that in the final year. The project was carried out in Romania in the first year and is going to be in Japan in 2014.

International Collaboration Bogota×Japan Outside 1001 Festival "The Last News" by **K-kunst** with Colombian Manusdea Antropologia Escenia as a partner is an attempt to reconsider butoh, which has been popular in Colombia, in Japan inviting young dancers from Bogota and with Japanese young dancers under guidance of butoh dancer Ko Murobushi through workshops, creation and touring performances. This year six people from Bogota including dancers took part in the project.

Fujiyama Annette × Dance Theatre 4P International Co-Production was in the second year of the project. Following the performance in Korea last year, they tried to brush up the piece and showed it in Japan. Through dance creation,

young artists deepened the piece intensely discussing the issues of Japan-Korea relations.

Mobile II: Flat Cities by Singapore theater company **The Necessary Stage**, which completed its grant-receiving term this year, was presented in Singapore and Malaysia as the result of conversations, workshops and creation processes with young Japanese artists since 2012. Understanding of different cultures is an important theme of international exchange projects, but it is interesting that generation gaps were also an important factor because the Japanese participant was a theater company **MoRatorium PanTS** formed mainly by artists in their 20s. The piece was selected in the top ten theater performances in 2013 by The Business Times, Singapore. By the way, the paper also featured the performance by Gotandadan led by Shiro Maeda, a grant recipient in this year, in Singapore.

Brazil and Japan Performing Arts Exchange Project by **Kyoto International Performing Arts Festival Executive Committee**, this year, presented a new piece by Marcelo Evelin, a participant from Brazil, as the result of the workshop in the previous year. For various reasons, participation of Japanese artists was cancelled, but instead an event that extensively introduced the situation of Japanese contemporary dance for the first time in Rio de Janeiro was carried out.

"Japan-Poland International Collaboration Project Document of **Posthuman Theatre**" by **Gekidan KAITAISHA** with Teatr Cinema as the partner explored such themes as how theater can respond to "the times when humans are not treated as humans" and restoration of "lost gestures of humans" through performances and symposia. Their study has been published as "Document: Posthuman Theatre 2011-2014".



京都国際舞台芸術実行委員会「ブラジル・日本レジデンス+クリエーション共同プロジェクト」京都、2013年9月 撮影：松見拓也
"Brazil and Japan Performing Arts Exchange Project" organized by Kyoto International Performing Arts Festival Executive Committee in Kyoto, September 2013.
Photo: Takuya Matsumi



劇団解体社「日本-ポーランド国際共同制作 ドキュメント『ポストヒューマンシアター』」森下スタジオ 2014年1月 撮影：宮内勝
"Japan-Poland International Collaboration Project Document of **Posthuman Theatre**", Gekidan KAITAISHA, at Morishita Studio, January 2014 Photo: Miyauchi Katsu

Akiko Kitamura, the organizer of **Office A/LB**, had carried out research and workshops in Indonesia, and that led to "Collaboration Project between Japan and Indonesia *To Belong -cyclonicdream-*." Three years was too short for its large-scale attempt, and the grant-receiving term completed this year, but we hope the activity continues as a cyclone involving what the late Slamet Gundono, Yudi Ahmad Tajudin and other collaborators have contributed to the project (see viewpoint, no.67).

In "FIN-JPN contemporary dance residence exchange and co-production program" by **Japan Contemporary Dance Network**, Ervi Sirén (Finland) and Kosei Sakamoto (Japan) selected dancers in their countries and exchanged them in their residency creations. The pieces were shown in Kyoto and Helsinki, and in the final year of the project, they were showcased at Performing Arts Meeting in Yokohama to look for more opportunities for presentations.

In 2013, Shiro Takatani's new performance *CHROMA*, the international collaboration project produced by **Dumb Type/Dumb Type Office Ltd.**, triggered by the presentation at Biwako Hall Center for the Performing Arts, Shiga in the previous year, was invited to a festival in Marseilles. It will be presented at Sapporo International Art Festival in 2014.

Other projects to which we provide continuous support have also been in good progress. Especially, *KARUMEGI Project* by directors Junnosuke Tada and Sung Ki Woong, received three awards for direction, production, and stage design/technique at the 50th Dong-A Theater Awards organized by Korean newspaper company The Dong-A Ilbo. It was the first time that the awards selected a Japanese director. The piece tours in Japan in autumn 2014.



ジャパン・コンテンポラリーダンス・ネットワーク「日本ーフィンランド
コンテンポラリーダンス レジデンス エクスチェンジ 共同製作プログラム」神奈川
2014年2月 撮影：前澤秀登
"FIN-JPN contemporary dance residence exchange and co-production program"
organized by Japan Contemporary Dance Network in Kanagawa, February 2014.
Photo: Hideto Maezawa



ダムタイプ「高谷史郎・新作パフォーマンス『CHROMA(クロマ)』」初演
滋賀 2012年9月 撮影：福永一夫
"Premiere of Shiro Takatani's new performance *CHROMA*" organized by Dumb Type in
Shiga, September 2012. Photo: Kazuo Fukunaga



オフィスアールブ「アジア国際共同制作企画『To Belong -cyclonic dream-』」シンガポール、
2014年3月
"Collaboration Project between Japan and Indonesia *To Belong -cyclonicdream-*",
organized by Office A/LB in Singapore, March 2014.



カルメギ・プロジェクト「カルメギ・プロジェクト」ソウル、2013年10月
KARUMEGI Project organized by *KARUMEGI Project* in Seoul, October 2013.

S20

4. テンポラル パターン

2013年9月6日-9月8日
愛知、シンガポール(愛知県芸術劇場小ホール、エスプラナード)
1,000,000円
スタジオ提供●5日間
ゲストルーム提供●24日間

オフィスアルプ

アジア国際共同制作企画『To Belong-cyclonic dream』

2013年11月8日-2014年3月24日
東京、長野、シンガポール、香港(森下スタジオ、茅野市民館、
NUS University Cultural Centre Theatre、CCDC Dance Centre、
Chinese University Hong Kong、Cattle Depot Theatre)
1,000,000円
スタジオ提供●37日間
ゲストルーム提供●33日間
2013年度までの助成金額(単位:円)

2011年度	2012年度	2013年度	合計
1,000,000	1,500,000	1,000,000	3,500,000

Kaori Ito / les ballets C de la B vzw

Asobi

2013年4月1日-2014年3月31日
ジュネーブ、ローマ、ルートヴィヒスハーフェン、ヴィルヌーヴ・ダスク、プレスト、
パリ、カレ、ゲント、シントニクラス、オーステンド、リンツ、パリ、東京、
ルクセンブルグ(ADC, Muziekcentrum De Bijloke, Theater im Pfalzbaum,
Le Rose des Vants, 「Equilibrio Festival」, Posthof, Le Quartz,
Le Grand Théâtre de Calais, Théâtre National de Chaillot, STUK Kunstencentrum,
スパイラルホール, Les Théâtres de la Ville他)
1,000,000円

カルメギ・プロジェクト

『カルメギ・プロジェクト』

2013年10月1日-10月26日
ソウル(ドゥサン・アートセンター)
1,000,000円
2013年度までの助成金額(単位:円)

2012年度	2013年度	合計
1,000,000	1,000,000	2,000,000

京都国際舞台芸術祭実行委員会

ブラジル・日本「レジデンス＋クリエーション」共同プロジェクト

2013年9月28日-11月09日
リオデジャネイロ、京都(「Panorama Festival」 Casa Franca-Brasil、
Centro Cultural Banco Do Brasil、「KYOTO EXPERIMENT」京都芸術センター)
1,000,000円
2013年度までの助成金額(単位:円)

2012年度	2013年度	合計
1,500,000	1,000,000	2,500,000

劇団解体社

日本-ポーランド国際共同制作 ドキュメント

『ポストヒューマンシアター』

2014年1月11日-1月13日
東京(森下スタジオ)
1,000,000円
スタジオ提供●14日間
ゲストルーム提供●29日間
2013年度までの助成金額(単位:円)

2011年度	2012年度	2013年度	合計
1,000,000	1,500,000	1,000,000	3,500,000

K-kunst

国際共同制作(国内) ポゴタ×日本〈外〉の千夜一夜

2013年11月15日-11月24日
東京、神奈川(セルバンテス文化センター、横浜赤レンガ倉庫)
1,000,000円
スタジオ提供●9日間

三条会

フジール・スレイマン作品『コギト』の日本語翻訳

および上演プロジェクト

2013年8月1日-9月11日
東京、シンガポール(森下スタジオ、Goodman Arts Centre, Singapore)
1,000,000円
スタジオ提供●47日間

— 特定非営利活動法人

ジャパン・コンテンポラリーダンス・ネットワーク
日本ーフィンランド コンテンポラリーダンス
レジデンス エクスチェンジ 共同製作プログラム

2014年2月16日
神奈川(「TPAM」神奈川芸術劇場)

1,000,000円

スタジオ提供●9日間

ゲストルーム提供●8日間

2013年度までの助成金額(単位:円)

2011年度	2012年度	2013年度	合計
1,000,000	1,500,000	1,000,000	3,500,000

— ダムタイプ／有限会社ダムタイプオフィス

高谷史郎・新作パフォーマンス『CHROMA(クロマ)』
国際共同制作プロジェクト2013

2013年6月29日-6月30日
マルセイユ(Theatre National de Marseille La Crie)

1,000,000円

2013年度までの助成金額(単位:円)

2011年度	2012年度	2013年度	合計
1,000,000	1,000,000	1,000,000	3,000,000

— The Necessary Stage Ltd

『Mobile IIーFlat Cities』モバイル2:フラット・シティーズ

2013年8月28日-9月15日

シンガポール、クアラルンプール

(The Necessary Stage Black Box、The Actors Studio内 KuAsh Theatre)

1,000,000円

— Fundatia Gabriela Tudor

EASTERN CONNECTION

2013年5月1日-2014年2月28日

ブカレスト、東京、神奈川(ZonaD studio, Paintbrush Factory他)

1,500,000円

— 富士山アネット

富士山アネット×Dance Theatre 4P 国際共同制作

[The Absence of the City]

2013年10月2日-11月9日

東京、京都、ソウル(新国立劇場、京都芸術センター、Mtheatre)

1,000,000円

スタジオ提供●5日間

— 株式会社 precog

池田扶美代×日本人ダンサーのコラボレーション作品の製作

2013年10月10日-10月20日

グラーツ、神奈川(国際舞台芸術祭「Steirscher Herbst Graz」、
神奈川芸術劇場)

1,000,000円

2013年度までの助成金額(単位:円)

2012年度	2013年度	合計
1,000,000	1,000,000	2,000,000

— Borrowed Landscape Japan (BLJ)

「Borrowed Landscape Project」

2013年6月10日-2014年3月31日

ルーヴェン、エッセン、東京(PACT、STUK、森下スタジオ)

1,000,000円

スタジオ提供●5日間

ゲストルーム提供●6日間

2013年度までの助成金額(単位:円)

2012年度	2013年度	合計
1,000,000	1,000,000	2,000,000

— 山縣美礼/川端康成トリロジー

台湾・日本国際協働企画 川端康成三部作

～『片腕』『少年』『水晶幻想』～

2014年1月10日-4月21日

台北、東京(URS127芸術空間、こまばアゴラ劇場)

1,000,000円

スタジオ提供●19日間

ゲストルーム提供●16日間

2013年度までの助成金額(単位:円)

2012年度	2013年度	合計
—	1,000,000	1,000,000

Borrowed Landscape Japan (BLJ)
Borrowed Landscape Project

June 10–March 31, 2013
 Leuven, Essen, Tokyo (PACT, STUK, Morishita Studio)
 ¥1,000,000
 Studio Rental: 5 days
 Guest Room Rental: 6 days
 Amount of continuous grants (in yen)

2012	2013	Total
1,000,000	1,000,000	2,000,000

Dumb Type/Dumb Type Office Ltd.
Shiro Takatani new performance CHROMA 2013
international collaboration project

June 29–June 30, 2013
 Marseille (Theatre National de Marseille La Crie)
 ¥1,000,000
 Amount of continuous grants (in yen)

2011	2012	2013	Total
1,000,000	1,000,000	1,000,000	3,000,000

Fujiyama Annette
Fujiyama Annette×Dance Theatre 4P
International Co-Production The Absence of the City

October 2–November 9, 2013
 Tokyo, Kyoto, Seoul (New National Theatre Tokyo, Kyoto Art Center, M Theater)
 ¥1,000,000
 Studio Rental: 5 days

Fundatia Gabriela Tudor
EASTERN CONNECTION

May 1, 2013–February 28, 2014
 Bucharest, Cluj, Tokyo, Yokohama (ZonaD studio, Paintbrush Factory, etc.)
 ¥1,500,000

Gekidan KAITAISHA
Japan–Poland International Collaboration Project
Document of Posthuman Theatre

January 1–January 13, 2013
 Tokyo (Morishita Studio)
 ¥1,000,000
 Studio Rental: 14 days
 Guest Room Rental: 29 days
 Amount of continuous grants (in yen)

2011	2012	2013	Total
1,000,000	1,000,000	1,000,000	3,000,000

Japan Contemporary Dance Network
FIN–JPN contemporary dance residence exchange
and co-production program

February 16, 2013
 Kanagawa (TPAM: Kanagawa Arts Theatre)
 ¥1,000,000
 Studio Rental: 9 days
 Guest Room Rental: 8 days
 Amount of continuous grants (in yen)

2011	2012	2013	Total
1,000,000	1,500,000	1,000,000	3,500,000

Kaori Ito / les ballets C de la B vzw
Asobi

April 1, 2013–March 31, 2014
 Ghent, Geneve, Ludwigshafen, Villeneuve d'Ascq, Rome, Paris, Tokyo etc.
 (ADC, Muziekcentrum De Bijloke, Theater im Pfalzhaus, Le Rose des Vents,
 "Equilibrio Festival", Posthof, Le Quartz, Le Grand Théâtre de Calais,
 Théâtre National de Chaillot, STUK Kunstencentrum, Spiral hall,
 Les Théâtres de la Ville etc.)
 ¥1,000,000
 Studio Rental: 9 days

KARUMEGI Project
KARUMEGI Project

October 1–October 26, 2013
 Seoul (Doosan Art Center)
 ¥1,000,000
 Amount of continuous grants (in yen)

2012	2013	Total
1,000,000	1,000,000	2,000,000

K-kunst
International Collaboration Bogota × Japan
Outside 1001 Festival "The Last News"

November 15–November 24, 2013
 Tokyo, Kanagawa (Cervantes Tokyo, Yokohama Red Brick Warehouse)
 ¥1,000,000
 Studio Rental: 9 days

Kyoto International Performing Arts Festival Executive Committee Brazil and Japan Performing Arts Exchange Project

September 28–November 9, 2013

Kyoto, Rio de Janeiro (Panorama: Casa Franca–Brasil,
Centro Cultural Banco Do Brasil, "KYOTO EXPERIMENT": Kyoto Art Center
¥1,000,000

Amount of continuous grants (in yen)

2012	2013	Total
1,500,000	1,000,000	2,500,000

Mirei Yamagata / THE YASUNARI KAWABATA TRILOGY Taiwan/Japan International Collaboration Project Yasunari Kawabata Trilogy "ONE ARM"(Seiji Nozoe), "A BOY"(Liang Yen Liu),"CRYSTAL ILLUSIONS" (Mirei Yamagata)

January 10–April 10, 2014

Taipei, Tokyo (URS127, Komaba Agora Theater)

¥1,000,000

Studio Rental: 19 days

Guest Room Rental: 16 days

Amount of continuous grants (in yen)

2012	2013	Total
–	1,000,000	1,000,000

The Necessary Stage Ltd Mobile II: Flat Cities

August 28–September 15, 2013

Singapore, Kuala Lumpur (The Necessary Stage Black Box,
The Actors Studio at KuAsh Theatre)

¥1,000,000

Office A/LB

Collaboration Project between Japan and Indonesia To Belong -cyclonicdream-

November 8, 2013–March 24, 2014

Tokyo, Nagano, Singapore, Hong Kong (Morishita Studio, Chino Cultural
Complex, NUS University Cultural)

¥1,000,000

Amount of continuous grants (in yen)

2011	2012	2013	Total
1,000,000	1,500,000	1,000,000	3,500,000

precog

Collaboration project by Fumiyo Ikeda & Japanese Dancer

October 10–October 20, 2013

Graz, Kanagawa ("Steirscher Herbst Graz", Kanagawa Arts Theater)

¥1,000,000

Amount of continuous grants (in yen)

2012	2013	Total
1,000,000	1,000,000	2,000,000

Sanjoukai

A Japanese translation project of Huzir Sulaiman's "Cogito"-

August 1–September 11, 2013

Tokyo, Singapore (Morishita Studio, Goodman Arts Centre, Singapore)

Studio Rental: 47 days

¥1,000,000

S20

4. Temporal Pattern

September 6–September 8, 2013

Aichi, Singapore (Aichi Arts Center, Esplanade)

Studio Rental: 5 days

Guest Room Rental: 24 days

¥1,000,000

II パートナーシップ・プログラム

Partnership Programs

3 現代演劇・舞踊助成 —— 芸術交流活動[非公募]

Artistic Exchange Project Grant
Program [designated fund program]

海外の非営利団体との継続的パートナーシップに基づく本プログラムでは、人物交流事業や日本文化紹介事業に対して助成を行っている。

日本現代戯曲英語版プレイ・リーディング・シリーズは、日本文化を北米に紹介する事業を行っているニューヨークのジャパン・ソサエティーが日本人の劇作家による現代戯曲の英訳版を、米国人演出家が米国人キャストを起用してリーディング形式で紹介するもの。

の。2013年4月に前川知大『散歩する侵略者』(Strolling Invader) および2014年3月に前田司郎『迷子になるわ』(Getting Lost)のリーディングを実施。リーディング風景はインターネットにより同時配信された。

また、1989年より支援している、ニューヨークに本部を置くアジア・カルチュラル・カウンシル(ACC)が日米の芸術家、学者、専門家、機関を対象に行っている相互的フェローシッププログラム「日米芸術交流 プログラム」において、本年度助成金が充当される2014年度の事業では、アメリカへの渡航・滞在費を、また来日する個人へは森下スタジオ・ゲストルームを一定期間提供する。該当する主な助成対象者は以下の通り:

● 小池博史 (演劇):

インドにおける伝統および現代演劇の調査

● 鈴木ユキオ (舞踊):

米国におけるコンテンポラリーダンスの実践と調査

● バジル・ツイスト (演劇):

高知県赤岡 における、江戸時代の 絵師、「絵金 (弘瀬金蔵)」の調査



ジャパン・ソサエティー
「日本現代戯曲英訳版プレイ・リーディング・シリーズ」ニューヨーク
"Play Reading: Contemporary Japanese Plays in English Translation Series" organized by
Japan Society, Inc. in New York

This program, which is based on continuing partnership with non-profit organizations outside of Japan, supports projects for personnel exchange and promotion of Japanese culture.

Play Reading: Contemporary Japanese Plays in English Translation Series by Japan Society, Inc., which has been disseminating Japanese contemporary theater to the North America, introduces English translations of contemporary plays by Japanese playwrights through readings directed and performed by American directors and actors. The readings are presented at Japan Society to a wide range of audiences at reasonable ticket prices (\$10-15). Strolling Invader by Tomohiro Maekawa in April 2013 and Getting Lost by Shiro Maeda in March 2014 were read there and broadcast via the Internet live.

Since 1989, The Saison Foundation has given support each year to "ACC Japan-United States Arts Program Fellowships," an interactive fellowship program for U.S. and Japanese artists, scholars, specialists and organizations, by the New York-based Asian Cultural Council (ACC). The grant awarded to the ACC program in 2013 will be appropriated to the expenses for traveling to and staying in the U.S. in 2014, and we will support those who visit Japan by offering the guest rooms at Morishita Studio for a certain period. Among the grantees in 2014 are:

- **Hiroshi Koike** (Theater): a two-month grant to research traditional and contemporary theater in India beginning in spring 2015.
- **Yukio Suzuki** (Dance): a six-month grant to observe and participate in contemporary dance activities in New York.
- **Basil Twist** (Theater): an eight-week grant to support research on the artist "Ekin" (Hirose Kinzo), a painter from the Edo period in Akaoka, Japan.

芸術交流活動
[非公募]

Artistic Exchange Project Grant Program
[designated fund program]

助成対象2件／助成総額6,500,000円
2 Grantees / Total appropriations: ¥6,500,000

アジア・カルチュラル・カウンシル

日米芸術交流プログラム(2014年度の活動に充当)

2014年1月1日 - 12月31日
アメリカ、日本
6,000,000円
ゲストルーム提供●66日間

ジャパン・ソサエティー

日本現代戯曲英訳版プレイ・リーディング・シリーズ

2013年4月1日 - 2014年3月31日
ニューヨーク
500,000円

Asian Cultural Council

ACC Japan-United States Arts Program Fellowships (for activities taking place in year 2014)

January 1 - December 31, 2014
U.S., Japan
¥6,000,000
Guest Room Rental: 66 days

Japan Society, Inc.

Play Reading: Contemporary Japanese Plays in English Translation Series

April 1, 2013 - March 31, 2014
New York
¥500,000

森下スタジオのその他の利用者

(2013年4月1日 - 2014年3月31日)
五十音順

スタジオ

利用日数

有限会社アップタウンプロダクション	37
ARICA	1
一般社団法人unlock	3
イキウメ/エッチビイ株式会社	33
池内美奈子	19
伊藤キム	5
ウロツテノヤ子バヤンガズ	4
AbsT	14
一般社団法人 大橋可也 & ダンサーズ	36
Kiki Arts Project	7
金魚(鈴木ユキオ)	52
劇団、本谷有希子	3
Ko & Edge co.	27
小池博史ブリッジプロジェクト	16
三条会	6
特定非営利活動法人シアタープランニングネットワーク	1
C.I.N.N.	2
Dance in Deed!	2
Dance Company BABY-Q	11
Dance Theatre LUDENS	28
デラシネラ	67
天使館	3
熱帯	11
富士山アネット	6
遊園地再生事業団	19
指輪ホテル	15
燐光群/(有)グッドフェローズ	2

ゲストルーム

燐光群/(有)グッドフェローズ	19
NPO法人 国際舞台芸術交流センター	8
山縣美礼	13

Other users of Morishita Studio

(April 1, 2013 – March 31, 2014)

Studio	number of days
AbsT	14
ARICA	1
C.I.N.N.	2
Dance Company BABY-Q	11
Dance in Deed!	2
Dance Theatre LUDENS	28
Derashinera	67
FujiyamaAnnette	6
gekidan, motoyayukiko	3
Hiroshi Koike Bridge Project	16
IKEUCHI MINAKO	19
ikiume/HB inc.	33
Kakuya Ohashi and Dancers	36
Kiki Arts Project	7
Kim Itoh	5
Ko & Edge co.	27
nettai	11
Sanjoukai	6
TENSHIKAN	3
Theatre company RINKOGUN/GOOD FELLOWS Inc.	2
Theatre Planning Network	1
u-ench saisei jigiyodan	19
unlock Association	3
Uptown production Inc.	37
UrotsuteNoyako Bayangans	4
YUBIWA Hotel	15
Yukio Suzuki company KINGYO	52

Guest Room

Japan Center, Pacific Basin Arts Communication (PARC)	8
Mirei Yamagata	13
Theatre company RINKOGUN/ GOOD FELLOWS Inc.	19

自主製作事業・共催事業等

SPONSORSHIP,
CO-SPONSORSHIP
AND OTHER PROGRAMS

自主製作事業

Sponsorship Programs

現代演劇・舞踊の海外ネットワークの拡大、相互理解の促進のため、重要な役割を担うことが期待される海外のアーティストやアーツ・マネジャー（プロデューサー、プログラム・ディレクター、プレゼンター、キュレーター等）を招聘し、森下スタジオのゲストルームを拠点とする滞在機会を提供。日本の現代演劇・舞踊の状況、背景、魅力を発見、理解してもらうために、日本との継続的な協働事業を視野に入れた日本の現代演劇・舞踊分野の研究を支援した。

We invited artists and arts managers (producers, program directors, presenters, curators, etc.) from overseas who are expected to play important roles in expanding international networks of contemporary theater and dance and in enhancing mutual understanding and offered them residency opportunities with the guest rooms at Morishita Studio as their working base. We supported their researches with the possibility of cooperative projects with Japan on a continuing basis in their perspectives to help them discover and learn about the situation, background and attraction of Japanese contemporary theater and dance.

1 レジデンス・イン・森下スタジオ ヴィジティング・フェロー (リサーチ・プログラム)

Residence in Morishita Studio
-Visiting Fellows
(Research Program)



平成25年度
文化庁文化芸術の海外発信拠点形成事業

Supported by the Agency for Cultural Affairs,
Government of Japan, in the fiscal 2013



ジョティ・ドグラ

インド

演出家、俳優

滞在期間●2013年10月10日-11月20日

Jyoti Dogra

India

Director/Actor

Residency period: October 10 - November 20, 2013

ジョティ・ドグラは身体の可能性を追求する創作活動に取り組み、代表作『The Doorway』では、身体に宿る空間の本質を題材に、身体の物語性を独創的な発語や動作で描写した。今回の滞在では、「日本の舞台芸術の身体性のリサーチ」という研究テーマで、現代演劇やコンテンポラリーダンス、舞踏、能、歌舞伎などの現代から伝統分野の舞台芸術をリサーチし、また、シアター・カンパニー・アリカとのコラボレーションの可能性を探るためにワークショップを行った。さらに、インドのティータイムをめぐる年齢や階級の異なる男女のエピソードを描くソロパフォーマンス『Notes on Chai』のショウイングを森下スタジオで行った。

Jyoti Dogra works on creations that explore the possibility of the body, and her landmark piece *The Doorway*, with the essence of space that dwells in the body as its theme, described the narrativity of the body through unique articulations of speeches and gestures. In her residency period, she researched traditional and current performing arts including contemporary theater and dance, butoh, noh and kabuki with "Research on the body in performing arts of Japan" as her theme, and held a workshop to explore the possibility of collaborating with Theatre Company ARICA. She also presented a showing of her solo performance *Notes on Chai*, which depicts episodes of men and women in different generations and classes around Indian teatime, at Morishita Studio.



撮影: Jeremy M. Barker Photo: Jeremy M. Barker

ズヴォニミール・ドブロヴィッチ

クロアチア

Perforacije Festival (Perforations Festival)

アーティストック・ディレクター

滞在期間●2013年11月25日-12月22日

Zvonimir Dobrović

Croatia

Artistic Director, Perforacije Festival (Perforations Festival)

Residency period: November 25 - December 22, 2013

ズヴォニミール・ドブロヴィッチはクロアチアのザグレブを拠点に国際フェスティバル「Queer Zagreb」や「Perforacije Festival」のアーティストック・ディレクターとして活動し、旧ユーゴスラビア諸国を中心とするバルカン地域の新進アーティストにフォーカスした実験的な舞台芸術作品をクロアチアの国内外で紹介している(来日時)。今回の滞在では、「日本の現代演劇とコンテンポラリーダンスの実験性」という研究テーマで、日本の現代演劇やコンテンポラリーダンスのジャンル横断的な活動や実験性に着目し、日本の舞台芸術で活動するアーティストの芸術性についてリサーチした。また、「クロアチア、バルカン地域におけるインディペンデント・パフォーマンス・アーツの状況」というタイトルでパブリックトークを行い、さらに、クロアチア出身の新進アーティスト、ブルーノ・イサコヴィッチのソロパフォーマンス『Denuded』のショウイングを企画した。

Zvonimir Dobrović works as artistic director of an international festival "Queer Zagreb" and "Perforacije Festival" based in Zagreb, Croatia, and has been internationally introducing experimental performing arts works with a focus on emerging artists from the Balkans, mainly the former Yugoslavia (as of his visit to Japan). He researched the expressions of artists that are active in the Japanese performing arts scene with a focus on multidisciplinary and experimental qualities of Japanese contemporary theater and dance. He delivered a public talk with "Independent performing arts landscape in the Croatia and the Balkans" as his theme, and presented a showing of *Denuded*, a solo performance by the Croatian emerging artist Bruno Isaković.



アンナ・レヴァノヴィッチ
ポーランド
Krakow Theatrical Reminiscences
フェスティバル・ディレクター
滞在期間●2014年2月3日-3月8日

Anna Lewanowicz
Poland
Festival Director, Krakow Theatrical Reminiscences
Residency period: February 3 - March 8, 2014

アンナ・レヴァノヴィッチはポーランドのクラクフを拠点に国際フェスティバル「Krakow Theatrical Reminiscences」のフェスティバル・ディレクターとして活動し、同フェスティバルでスイス、ラトビア、ポーランドの国際共同リサーチプロジェクト「Open Circle」(2012-2013)や、都市空間とコンテンポラリーダンスの関係性に着目した国際共同プロジェクト「Dance Move Cities」(2013-2014)を手掛けている(来日時)。今回の来日では、「現代社会を反映する現代の舞台芸術」という研究テーマで、文楽や能、歌舞伎に代表されるポーランドでの日本の舞台芸術のイメージを変えるために日本の現代演劇やコンテンポラリーダンスについてリサーチした。また、「クラクフを事例とするポーランドのパフォーミング・アーツの現況」というタイトルでパブリックトークを行った。

Anna Lewanowicz is based in Krakow, Poland, and works as Festival Director of an international festival "Krakow Theatrical Reminiscences," in which she organized "Open Circle" (2012-2013), an international cooperative research project with Switzerland and Latvia, and "Dance Move Cities" (2013-2014), an international cooperative project focusing on the relationship between urban space and contemporary dance (as of her visit to Japan). She researched Japanese contemporary theater and dance with "Contemporary performing arts as a reflection on contemporary society" as her theme in order to change the perception of Japanese performing arts in Poland, which has been dominated by bunraku, noh and kabuki. She delivered a public talk entitled "An overview of Polish art scene on an example of Krakow."



ヘリー・ミナルティ
インドネシア
ジャカルタ・アーツカウンシルプログラム部門長、ダンスキュレーター
滞在期間●2014年2月8日-3月9日

Helly Minarti
Indonesia
Head of Program, Jakarta Arts Council
Dance curator
Residency period: February 8 - March 9, 2014

ヘリー・ミナルティは主にコンテンポラリーダンスのキュレーションやプログラミングを手掛け、現在、ジャカルタ・アーツカウンシルのプログラム部門長、インドネシアン・ダンス・フェスティバル2014の共同キュレーターを務める(来日時)。今回の来日では、「日本のコンテンポラリー・パフォーミングアーツの最新の状況: 主要なトピックとアーティストのアップデート」というタイトルで、日本のコンテンポラリー・パフォーミングアーツの最新の状況をマッピングすることを目的とし、東京、横浜、京都、神戸、大阪でリサーチを行った。また、「特異性の欠如した視覚性: インドネシアのコンテンポラリーダンスの現在を読み解く」というタイトルでパブリックトークを行った。

Helly Minarti works mainly on contemporary dance curation and programming, and currently is the head of program for the Jakarta Arts Council and also co-curates the Indonesian Dance Festival 2014 (as of her visit to Japan). To map the latest situation of Japanese contemporary performing arts, her research entitled "The latest scene of contemporary performing arts in Japan" was carried out in Tokyo, Yokohama, Kyoto, Kobe and Osaka. She also delivered a public talk entitled "Visuality in the absence of singularity: an attempt to read the latest works of Indonesian contemporary choreographers."

自主製作事業

Sponsorship Programs

2 ニュースレター『viewpoint』

Newsletter “viewpoint”

ニュースレター「viewpoint」の刊行

セゾン文化財団のニュースレター『viewpoint』では、セゾン・フェロー、舞台芸術界におけるインフラストラクチャーの整備、国際的な共同制作・公演事業、サバティカル（海外での休暇・充電）などの活動の成果を中心に、当財団の助成・共催事業に関連する論考、レポートを幅広く掲載している。発行部数は毎号1400部。芸術団体、自治体、助成財団、マスコミ、大学、シンクタンク、研究者などに無料配布している。（以下執筆者の所属、肩書等は掲載当時のもの。）

第63号（2013年5月発行）

- 孤独と連帯 ―「舞台芸術制作者オープンネットワーク」発足に寄せて
橋本裕介[舞台芸術制作者オープンネットワーク理事長、舞台芸術プロデューサー]
- 不安を忘れない
ダグマー・ヴァルザー[リヒテンシュタイン/スイス 国営 ラジオ 局 SRF2 Kultur 演劇 エディター、チューリッヒ国際舞台芸術祭テアター・シュペクターケル プロジェクト・チーム・メンバー]（ヴィジティング・フェロー）
- 〈媒介〉としての「日本」 ― 舞台芸術のモビリティを高めるために
内野 儀 [東京大学大学院総合文化研究科教授(表象文化論)、当財団評議員]

第64号（2013年8月発行）

- 旅を巡って ― サバティカル雑感
小池博史[演出家・作家・振付家・舞台美術家、‘舞台芸術の学校’ 校長、
「小池博史ブリッジプロジェクト」代表]
- 根を張る日々
手塚夏子[ダンサー・振付家]（セゾン・フェロー）
- つなごうとする意志 ― 2013年上半期の舞台を見て
松岡和子[翻訳家・演劇評論家、当財団評議員]

第65号（2013年11月発行）

- JCDNの15年を少しだけ振り返ってみて
佐東範一[NPO法人ジャパン・コンテンポラリーダンス・ネットワーク代表]
- ファウンド・イン・トランスレーション：
国際共同制作の創造プロセスにおける翻訳の役割を探る
滝口 健[シンガポール国立大学英語英文学科演劇学専攻リサーチフェロー、PhD(日本研究)]
- ある物体は名付けられる以前より、常にそのものである。
塚原悠也[contact Gonzo]（セゾン・フェロー）

第66号 追悼 堤清二 理事長(2014年2月発行)

● 序文

片山正夫[当財団常務理事]

● 堤さんの「いいんじゃない」

天児牛大[山海塾主宰]

● 堤清二さんを偲んで

一柳 慧[作曲家・ピアニスト、公益財団法人神奈川芸術文化財団芸術総監督、当財団評議員]

● 応答

岡田利規[演劇作家・チェルフィッチュ主宰]

● 告白すれば

川村 毅[劇作家・T factory主宰]

● 光を与え続ける偉人

北村明子[振付家・ダンサー、信州大学人文学部准教授]

● 前衛と慈愛が交差し堤清二が逝く。

セゾン文化の夢を孕んだ昭和という時代が逝く。

紀国憲一[元セゾン文化財団常務理事、元セゾン現代美術館常務理事・館長]

● 辻井喬の思い出

ドナルド・キーン[コロンビア大学名誉教授]

● 烽火は消えない

小池一子[クリエイティブ・ディレクター、当財団評議員]

● 濁りのない常識人として

小池博史[演出家]

● かけがえのない人

高橋昌也[俳優・演出家、当財団評議員]

● 「綱渡り」という倫理

高山 明[Port B主宰・演出家]

● 堤さん

勅使川原三郎[ダンサー・振付家]

● 堤さんの思い出

平田オリザ[劇作家・演出家・青年団主宰、こまばアゴラ劇場支配人、大阪大学コミュニケーションデザイン・センター教授]

● 文化のフィランソロピスト

福原義春[株式会社資生堂名誉会長、公益社団法人企業メセナ協議会会長]

● 矜持としての支援活動

宮沢章夫[遊園地再生事業団主宰、劇作家、演出家、小説家]

● ありがとうございました。

八木忠栄[元セゾン文化財団常務理事、詩人]

● 表現者としての経営者を悼む

山崎正和[評論家・劇作家、当財団評議員]

● 堤清二さんへの追悼

リチャード・ラニエ[アジア・カルチュラル・カウンシル理事長]

Publishing of viewpoint

The Saison Foundation's newsletter *viewpoint* carries a wide range of reports and essays, including the results of the Foundation's grants and the outcome of projects supported by the Foundation. Fourteen hundred copies are published for each issue, which are circulated free of charge to art organizations, local governments, foundations, the press, universities, think tanks, researchers, etc. (The following titles and organizations of the writers are of those at the time of publication.)

Issue No.63 (May 2013)

- Solitude and Solidarity – On the Establishment of Open Network for Performing Arts Management
by Yusuke Hashimoto, President of Open Network for Performing Arts Management; Performing Arts Producer
- Unruhe bewahren (Remembering Anxiety)
by Dagmar Walser, Theater Editor for the Swiss radio station SRF Kultur 2 and Project Member of Zürcher Theater Spektakel (Visiting Fellow of The Saison Foundation)/Lichtenstein
- "Japan" as a Medium – To Boost Mobility of Performing Arts
by Tadashi Uchino, Professor, Graduate School of Arts and Sciences of The University of Tokyo, Trustee of The Saison Foundation

Issue No.64 (August 2013)

- About Traveling – Impressions of My Sabbatical
by Hiroshi Koike, Director, Writer, Choreographer, Stage Designer, President of Performing Arts Institute, Head of Hiroshi Koike Bridge Project
- The Days of Spreading Roots
by Natsuko Tezuka, Dancer and Choreographer (Saison Fellow)
- The Will to Connect – Seeing Stages of the First Half Year of 2013
by Kazuko Matsuoka, Translator, Theater Critic, Trustee of The Saison Foundation

Issue No.65 (November 2013)

- Slightly Looking Back at the First Fifteen Years of JCDN
by Norikazu Sato, Representative, Japan Contemporary Dance Network
- Found in Translation: Exploring the Role of Translation in the Creative Process of International Collaboration Projects
by Ken Takiguchi, Research Fellow, Theatre Studies Programme, Department of English Language & Literature at the National University of Singapore, PhD (Japanese Studies)
- Some Things Are Permanently There Before They Are Given Names.
by Yuya Tsukahara, contact Gonzo (Saison Fellow)

Issue No. 66 – In Memory of Seiji Tsutsumi (February 2014)

- Prologue
by Masao Katayama, Managing Director, The Saison Foundation
- Mr. Tsutsumi's "Why Not?"
by Ushio Amagatsu, Artistic Director of Sankai Juku
- Remembering Mr. Seiji Tsutsumi
by Toshi Ichiyanagi, Composer and Pianist; General Artistic Director of Kanagawa Arts Foundation;
Trustee of The Saison Foundation
- Response
by Toshiki Okada, Theater Artist and Artistic Director of chelfitsch
- If I Were To Confess
by Takeshi Kawamura, Playwright and Artistic Director of T factory
- A Great Person Who Keeps Giving Light
by Akiko Kitamura, Choreographer and Dancer; Associate Professor, Faculty of Arts,
Shinshu University
- The Avant-Garde and Affection Cross Over as Seiji Tsutsumi Passes Away.
The Era of Showa Containing the Dream of Saison Culture Passes Away.
by Ken'ichi Kinokuni, Former Managing Director of The Saison Foundation; Former Managing
Director and Director of the Sezon Museum of Modern Art
- Memories of Takashi Tsujii
by Donald Lawrence Keene, Professor Emeritus of Japanese Literature,
Columbia University [Note: Takashi Tsuji was the pen name of Seiji Tsutsumi as a poet and novelist]
- The Beacon Will Blaze On
by Kazuko Koike, Creative Designer, Trustee of The Saison Foundation
- As A Common-sense Person With Clarity
by Hiroshi Koike, Director
- An Irreplaceable Person
by Masaya Takahashi, Actor, Director, Trustee of The Saison Foundation
- A Set of Ethics Called "Tightrope Walking"
by Akira Takayama, Artistic Director of Port B, Director
- Mr. Tsutsumi
by Saburo Teshigawara, Dancer and Choreographer
- Memories of Mr. Tsutsumi
by Oriza Hirata, Playwright, Director, Artistic Director of Seinendan, Manager of Komaba Agora
Theater; Professor, Center for the Study of Communication Design, Osaka University
- A Philanthropist of Culture
by Yoshiharu Fukuhara, Honorary Chairman, Shiseido, Co. Ltd.; Chairman,
Association for Corporate Support of the Arts
- Supporting Activities as Dignity
by Akio Miyazawa, Artistic Director of U-ench Saisei Jigyodan, Playwright, Director, Novelist
- Thank You Very Much.
by Chuei Yagi, Former Managing Director of the Saison Foundation; Poet
- Mourning an Entrepreneur as an Expressive Individual
by Masakazu Yamazaki, Critic, Playwright, Trustee of The Saison Foundation
- A Tribute to Tsutsumi Seiji
by Richard S. Lanier, President, Asian Cultural Council

共催事業・協力事業

Co-sponsorship and Cooperative Programs

[共催事業]

リアル・アーティストカンバセーション・ワークショップ

共催 ● ブリティッシュ・カウンシル
会期 ● 2013年5月23日 - 7月25日
会場 ● 森下スタジオ

森下スタジオ新館にあるラウンジを活用して、英語を使ったコミュニケーション・スキルを上げるための英語ワークショップを開催。今回はアーティストを対象として、ブリティッシュ・カウンシルの講師派遣による協力のもと、アーティストおよび制作者計11名が参加した。約3ヶ月間、12回実施し、英語でのコミュニケーション向上を目標に、作品について自ら語る練習や、実践的なロールプレイ、プレゼンテーションを繰り返し行った。模擬記者会見や、昼食会などゲストを迎えて英語で交流する回も設けた。年間を通して継続を希望する声など反響がある。

[協力事業]

ナショナル・シアター・ウェールズ・レジデンス プログラム“Wales Lab”

2014年 日本人アーティスト 招聘プログラム説明会

会期 ● 2013年4月11日
会場 ● ブリティッシュ・カウンシル

劇場という特定の活動拠点を持たない演劇団体として2009年に設立されたナショナル・シアター・ウェールズ(NTW)のレジデンス・プログラムの紹介説明会の広報に協力を行った。

公開講演会：3.11後のアート・文化と社会デザイン

会期 ● 2013年5月25日
会場 ● 立教大学池袋キャンパス

立教大学大学院21世紀社会デザイン研究科が実施する事業に対して、広報協力と当財団常務理事による登壇者コーディネート(近藤文化庁長官[当時]他)を行った。東日本大震災後、アートや文化領域からの多彩な取り組みを議論の糸口として、アート・文化が社会デザインのなかで果たせる役割について講演(近藤誠一、加藤種男)や、パネルディスカッション(五十嵐太郎、太下義之、長坂俊成、福屋粧子、片山正夫)が行われた。

[Co-sponsorship Program]

Real Artist Conversation English for Performing Arts Artists

Co-sponsor: British Council Japan
Period: May 23 - July 25, 2013
Venue: Morishita Studio

We used the lounge of the new annex of Morishita Studio for this workshop for improving communication skills in English. This year, 11 artists and presenters took part in the workshop in cooperation with British Council Japan, which sent an instructor specializing in English education. Throughout the 12 sessions in three months, in order to improve English communication, the participants repetitively worked on explanations of their own creations, practical role-plays and presentations. Some sessions involved a virtual press conference and a lunch meeting, where they exchanged with guests in English, as well. We have received a lot of responses including requests for holding the workshop yearround.

[Cooperative Program]

National Theatre Wales' Residence Program "Wales Lab"

Explanatory Meeting on Invitation Program for Japanese Artists in 2014

Date: April 11, 2013
Venue: British Council Japan

National Theatre Wales (NTW) was established in 2009 as a theater group that does not have a specific base such as a theater for their activity. Wales Lab is a residency program for supporting artists of diverse genres, on which NTW has been putting importance on as much as their creations. The Saison Foundation cooperated in the publicity campaign through such methods as email distribution.

Public Lecture: Art, Culture and Social Design after 3.11

Date: May 25, 2013
Venue: Rikkyo University, Ikebukuro Campus

For the project by the Graduate School of Social Design Studies, Rikkyo University, The Saison Foundation offered publicity cooperation, and our managing director coordinated the panel (including Seiichi Kondo, the then-Commissioner for Cultural Affairs). With the diverse attempts in the fields of art and culture since the Great East Japan Earthquake as a starting point for discussion, the event presented lectures by Seiichi Kondo and Taneo Kato as well as a panel discussion by Taro Igarashi, Yoshiyuki Oshita, Toshinari Nagasaka, Shoko Fukuya and Masao Katayama on how art and culture may play a role within social design.

事業日誌

会計報告

評議員・理事・監事・顧問名簿

REVIEW OF ACTIVITIES

FINANCIAL REPORT

TRUSTEES, DIRECTORS,

AUDITORS AND ADVISERS

2013年

- 5月27日** 第12回理事会開催(2012年度事業報告、財務諸表および同附属明細書並びに財産目録報告の件)
- 6月11日** 第4回評議員会開催(同上)
第13回理事会開催
(事業執行および法人管理の状況報告)
- 8月1日** 2014年度《現代演劇・舞踊公募プログラム》募集開始
- 9月26日** 2014年度《現代演劇・舞踊公募プログラム》セゾン・フェロー申請締切
- 10月24日** 2014年度《現代演劇・舞踊公募プログラム》サバティカル/パートナーシップ・プログラム/ヴィジティング・フェロー申請締切
- 11月8日** 第14回理事会開催(アドバイザー委員選出の件)
- 12月22日** 2014年度アドバイザー・ミーティング開催
- 12月25日** 第5回評議員会開催(理事選任の件)

2014年

- 1月27日** 第15回理事会開催(2014年度事業計画及び収支予算、理事長、副理事長選定の件)
- 1月28日** 2013年度助成対象者懇親会を森下スタジオ新館にて開催
- 1月29日** 2014年度助成等決定発表
- 2月26日** 堤清二前理事長「お別れの会」(於・帝国ホテル)

2013

- May 27** The 12th Board of Directors Meeting in Tokyo
(Agenda: report on activities and settlement of accounts for fiscal year 2012)
- June 11** The 4th Board of Trustees Meeting in Tokyo
(Agenda: report on activities and settlement of accounts for fiscal year 2012)
The 13th Board of Directors Meeting in Tokyo
(Agenda: report on activities and management)
- August 1** Application period for the 2014 Contemporary Theater and Dance Grant and Studio/Guestroom Awards and Visiting Fellows Program begins
- September 26** Application deadline for the 2014 Contemporary Theater and Dance Grants and Studio Awards: Saison Fellows
- October 24** Application deadline for the 2014 Contemporary Theater and Dance Grants and Studio/Guestroom Awards: Sabbatical / Partnership / Visiting Fellows Programs
- November 8** The 14th Board of Directors Meeting in Tokyo
(Agenda: Selection of Advisors of the Advisory Meeting)
- December 22** Advisory meeting for the 2014 Contemporary Theater and Dance Grant and Studio/Guestroom Awards and Visiting Fellows Program held in Tokyo
- December 25** The 5th Board of Trustees Meeting in Tokyo
(Agenda: Selection of Directors)

2014

- January 27** The 15th Board of Directors Meeting in Tokyo
(Agenda: proposal of plans and budget for fiscal year 2014, selection of President and Vice-President)
- January 28** Party for 2013 Grantees at Morishita Studio
- January 29** Announcement of 2014 Contemporary Theater and Dance Grant and Studio/Guestroom Awards and Visiting Fellows Program
- February 26** Memorial Service for our former President, Seiji Tsutsumi at Imperial Hotel, Tokyo

単位: 円 / in yen

正味財産増減計算書

2013年4月1日 - 2014年3月31日

NET ASSETS VARIATION STATEMENT

from April 1, 2013 to March 31, 2014

I 経常収益の部	Ordinary Revenue	
1. 基本財産運用収入	Investment income from endowment fund	206,743,956
2. 特定目的資産運用収入	Investment income from designated fund	1,120,222
3. 賃貸収入	Income from lease	13,555,299
4. その他の収入	Other income	7,570,684
経常収益計	Total Ordinary Revenue	228,990,161
II 経常費用の部	Ordinary Expenses	
1. 事業費	Program services	190,739,207
（うち助成事業）	Grant programs	60,400,000
2. 管理費	Management and general	43,073,715
経常費用計	Total Ordinary Expenses	233,812,922
評価損益等計	Total of Profit and Loss on Appraisal	143,363,926
当期経常増減額	Current Change in Ordinary Profit	138,541,165
当期経常外増減額	Current Change in Extraordinary Profit	0
当期正味財産増減額	Current Change in Net Assets	138,541,165

単位: 円 / in yen

貸借対照表

2014年3月31日現在

BALANCE SHEET

as of March 31, 2014

I 資産の部	ASSETS	
1. 流動資産	Current assets	
現金預金	Cash	104,108,124
有価証券	Securities	0
未収収益等	Accrued revenue	755,428
流動資産合計	Total current assets	104,863,556
2. 固定資産	Fixed assets	
基本財産	Endowment	
土地	Land	2,556,129,607
有価証券	Securities	6,180,906,786
基本財産合計	Total endowment fund	8,737,036,393
特定目的資産	Designated fund	439,348,232
その他の固定資産	Other fixed assets	404,051,440
固定資産合計	Total fixed assets	9,580,436,065
資産合計	TOTAL ASSETS	9,685,299,621
II 負債の部	LIABILITIES	
負債合計	TOTAL LIABILITIES	47,696,265
III 正味財産の部	NET ASSETS	
正味財産	Net assets	9,637,603,356
（うち当期正味財産増加額）	Increase of assets	138,541,165
負債および正味財産合計	TOTAL LIABILITIES AND NET ASSETS	9,685,299,621

資金助成の概況

1987 - 2013 年

Summary of Grants

1987 - 2013

分野 category	年度 year	申請件数 number of applications	助成件数 number of grants	助成金額(円) grants in yen
現代演劇・舞踊助成 Contemporary Theater and Dance Program Grants	1987 - 09	3,482	837	1,987,018,866
	2010	175	45	59,300,000
	2011	162	45	54,100,000
	2012	184	45	55,100,000
	2013	151	45	53,900,000
	累計 total	4,154	1,017	2,209,418,866
非公募助成 Designated Fund Program Grants	1987 - 09		211	738,246,449
	2010		4	8,400,000
	2011		4	6,707,000
	2012		2	4,900,000
	2013		2	6,500,000
	累計 total		223	764,753,449
合計 grand total			1,240	2,974,172,315

2013年度[現代演劇・舞踊公募プログラム]の申請・採択状況

Data on Contemporary Theater and Dance Programs in 2013

プログラム programs	芸術家への直接支援 Direct Support to Artists			パートナーシップ・プログラム Partnership Programs		合計 Total	ヴィジティング・フェロー Visiting Fellows
	セゾン・フェロー Saison Fellows		サバティカル (休暇・充電) Sabbatical Program	創造環境整備 Creative Environment Improvement Program	国際 プロジェクト 支援 International Projects Support Program		
	ジュニア・ フェロー Junior Fellows	シニア・ フェロー Senior Fellows					
申請件数 number of applications	66* (41/23/2)	25* (15/10/0)	0	22	38*	151	39
助成件数 number of awards	11* (7/3/1)	8* (3/5/0)	0	10	16*	45	4
助成金額 (円) grants in yen	11,000,000	21,500,000	0	4,900,000	16,500,000	53,900,000	-

* 継続を含む Including extended grants
(演劇 / 舞踊 / パフォーマンス) (theater / dance / performance)

評議員

石井達朗	舞踊評論家
一柳 慧	作曲家／ピアニスト／ 公益財団法人神奈川芸術文化財団 芸術総監督
植木 浩	公益財団法人ポーラ美術振興財団 理事
内野 儀	東京大学大学院総合文化研究科 教授
小池一子	武蔵野美術大学 名誉教授
佐藤俊一	元・駐ベルギー特命全権大使／ 一般財団法人 MarchingJ 財団 代表理事
堤 たか雄	一般財団法人セゾン現代美術館 代表理事
沼野充義	東京大学大学院人文社会系研究科 教授
松岡 和子	演劇評論家／翻訳家
水落 潔	演劇評論家
山崎正和	評論家／劇作家
林野 宏	株式会社クレディセゾン 代表取締役社長

理事・監事

理事長	伊東 勇*	元・株式会社パルコ取締役兼 代表執行役会長
副理事長	堤 麻子	一般財団法人セゾン現代美術館 評議員
常務理事	片山正夫*	
理事	鍵岡正謹	岡山県立美術館 館長
	堤 康二	株式会社パルコ エンタテインメント事業部 制作顧問
	中野晴啓	セゾン投信株式会社 代表取締役社長
	北條慎治	株式会社セゾン情報システムズ 常勤監査役
	渡邊紀征	元・株式会社西友 取締役会議長・ 代表執行役
監事	伊藤 醇	公認会計士
	三宅 弘	弁護士
顧問	小林陽太郎	学校法人 国際大学 理事長
	堤 猶二	株式会社横浜グランドインター コンチネンタルホテル 代表取締役会長

*常勤

TRUSTEES

Toshi Ichiiyanagi	Composer and Pianist; General Artistic Director, Kanagawa Arts Foundation
Tatsuro Ishii	Dance Critic
Kazuko Koike	Professor Emeritus, Musashino Art University
Kazuko Matsuoka	Theater Critic and Translator
Kiyoshi Mizoochi	Theater Critic
Mitsuyoshi Numano	Professor, Graduate School of Humanities and Sociology, The University of Tokyo
Hiroshi Rinno	President and Chief Executive Officer, Credit Saison Co., Ltd.
Shunichi Sato	Former Ambassador to the kingdom of Belgium; President, MarchingJ Foundation
Takao Tsutsumi	President, Sezon Museum of Modern Art
Tadashi Uchino	Professor, Graduate School of Arts and Sciences, The University of Tokyo
Hiroshi Ueki	Director, Pola Art Foundation
Masakazu Yamazaki	Critic and Playwright

DIRECTORS AND AUDITORS

PRESIDENT	Isamu Ito*	Former Member of the Board and Representative Executive Officer, Parco Co., Ltd.
VICE PRESIDENT	Asako Tsutsumi	Trustee, Sezon Museum of Modern Art
MANAGING DITRECTOR DIRECTORS	Masao Katayama* Shinji Houjyou	Corporate Auditor, Saison Information Systems Co., Ltd
	Masanori Kagioka	Director, Okayama Prefectural Museum of Art
	Haruhiro Nakano	President and Chief Executive Officer, Saison Asset Management Co.,Ltd
	Koji Tsutsumi	Production Adviser, Entertainment Department, Parco Co., Ltd.
	Noriyuki Watanabe	Former Chairman of the board and Representative Exective Officer, Seiyu Co., Ltd.
AUDITORS	Jun Ito Hiroshi Miyake	Certified Public Accountant Attorney at Law

ADVISERS

Yotaro Kobayashi Yuji Tsutsumi	Chairman, International University of Japan Chairman & CEO, Yokohama Grand Inter Continental Hotel Co., Ltd
-----------------------------------	---

*full-time

公益財団法人セゾン文化財団

設立年月日 1987年7月13日
正味財産 9,637,603,356円(2014年3月31日現在)

常務理事 片山正夫

事業部	久野敦子	プログラム・ディレクター
	岡本純子	プログラム・オフィサー
	堤 治菜	プログラム・オフィサー
	稲村太郎	プログラム・コーディネーター
	福富達夫	パブリック・リレーションズ・マネジャー／ 森下スタジオ ジェネラル・マネジャー
管理部	坂上孝男	管理部長
	橋本美那子	アドミニストレーター
	斉藤邦彦	森下スタジオ マネジャー
	前川裕美	森下スタジオ アシスタント・マネジャー
	上田 亘	森下スタジオ アシスタント・マネジャー
橋本真也	森下スタジオ アシスタント・マネジャー	

2013年度 事業報告書

2014年10月発行

公益財団法人セゾン文化財団
〒104-0061 東京都中央区銀座1-16-1 東貨ビル8階
TEL: 03(3535)5566 FAX: 03(3535)5565
foundation@saizon.or.jp
http://www.saizon.or.jp

翻訳 新井知行(福富達夫:P.29, 31, 33)
デザイン 新保慶太+新保美沙子(smbetsmb)

THE SAISON FOUNDATION

Date of Establishment July 13, 1987
Net assets ¥9,637,603,356 (as of March 31, 2014)

Managing Director Masao Katayama

Program	Atsuko Hisano	Program Director
	Junko Okamoto	Program Officer
	Haruna Tsutsumi	Program Officer
	Taro Inamura	Program Coordinator
	Tatsuo Fukutomi	Public Relations Manager / General Manager, Morishita Studio
Administration	Kunihiko Saito	Manager, Morishita Studio
	Hiromi Maekawa	Assistant Manager, Morishita Studio
	Wataru Ueda	Assistant Manager, Morishita Studio
	Shinya Hashimoto	Assistant Manager, Morishita Studio
	Takao Sakagami	Financial Manager
Minako Hashimoto	Administrator	

ANNUAL REPORT 2013

Published: October 2014

THE SAISON FOUNDATION
Toka Bldg. 8th Floor, 1-16-1 Ginza, Chuo-ku, Tokyo 104-0061, Japan
TEL: +81 3 (3535) 5566 FAX: +81 3 (3535) 5565
foundation@saizon.or.jp
http://www.saizon.or.jp/english

Translated by
Tomoyuki Arai (Tatsuo Fukutomi: P.29, 31, 33)

Designed by
Keita Shimbo + Misaco Shimbo (smbetsmb)